CONTAX



取扱説明書

645

この取扱説明書は、Recycled Paper を使用しています。

このたびは、コンタックス645をお買い上げいただきありがとうございます。
このカメラは作品づくりの可能性を追求すると同時に、Carl Zeissレンズの秀でた描写力をさらに引き出すために6×4.5cmフォーマットを採用したオートフォーカス一眼レフシステムカメラです。さらに次のような特徴もございますので、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いで末永くご愛用ください。

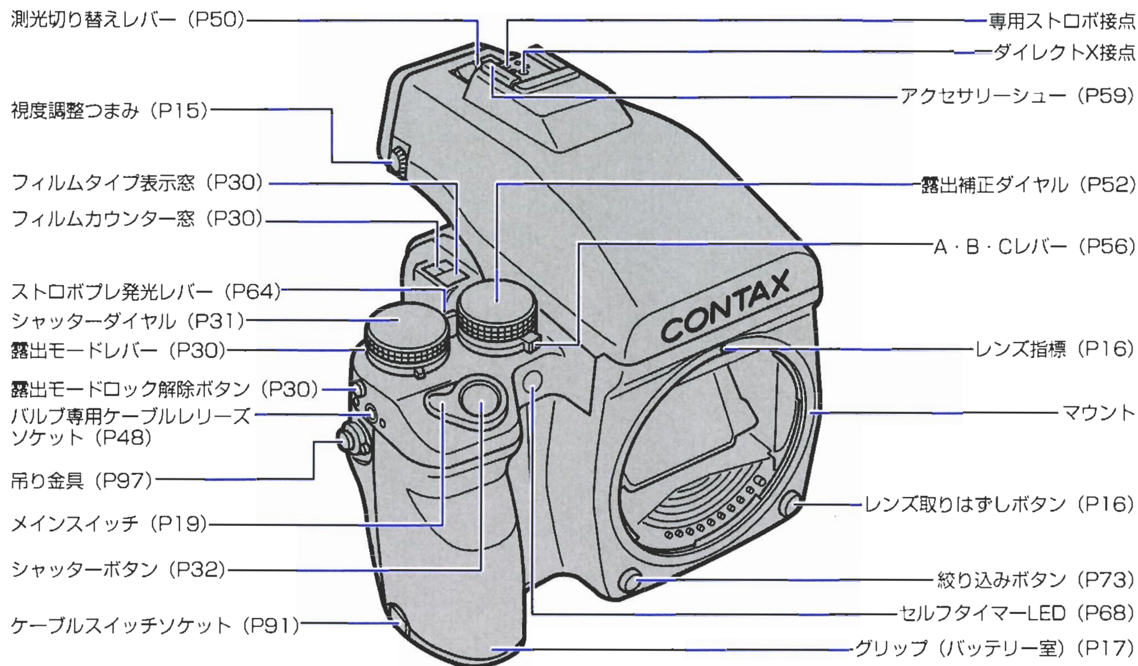
①オートフォーカス（AF)、マニュアルフォーカス（MF）を被写体に応じて自在に使い分け可能
②カールツァイスT＊レンズ性能をフルに引き出す高速シャッター搭載
③フィルム平面性を格段に向上させるリアルタイムバキュームシステム（別売）
④ストロボ光を事前に測光する『プレフラッシュTTL測光』
⑤撮影データ記録機能

この取扱説明書の説明内容は、CONTAX 645ボディにAEプリズムファインダー、120/220フィルムインサートおよびプラナーT＊80mmF2付きで行っています。他のCONTAX 645用一眼レフ対応カールツアイス交換レンズを装着した場合も特に記載がない限り使用方法は同じです。



この取扱説明書は、図のようにして各部の名称と照らし合わせて読むことができます。

各部の名称



測光切り替えレバー（P50）
専用ストロボ接点
ダイレクトX接点
アクセサリーシュー（P59）
視度調整つまみ（P15）
フィルムタイプ表示窓（P30）
露出補正ダイヤル（P52）
フィルムカウンター窓（P30）
A・B・Cレバー（P56）
CONTAX
ストロボプレ発光レバー（P64）
シャッターダイヤル（P31）
露出モードレバー（P30）
レンズ指標（P16）
露出モードロック解除ボタン（P30）
バルブ専用ケーブルレリーズソケット（P48）
マウント
吊り金具（P97）
レンズ取りはずしボタン（P16）
メインスイッチ（P19）
シャッターボタン（P32）
絞り込みボタン（P73）
セルフタイマーLED（P68）
ケーブルスイッチソケット（P91）
グリップ（バッテリー室）（P17）

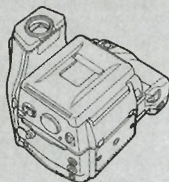
目　次

その他

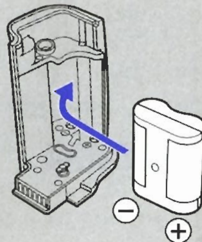
別売アクセサリー

撮影手順の早わかり（オート露出撮影）

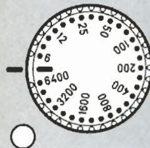
1 フィルムバック、ファインダー、レンズをカメラボディに取り付けます。（P12、14、16）



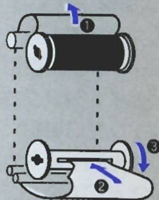
2 電池を入れます。（P17）



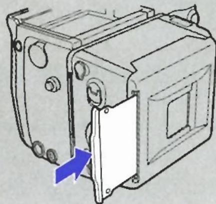
3 フィルム感度をセットします。（P26）



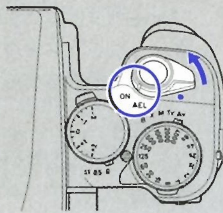
4 圧板の指標をフィルムの種類に合わせ、フィルムを入れます。（P27－29）



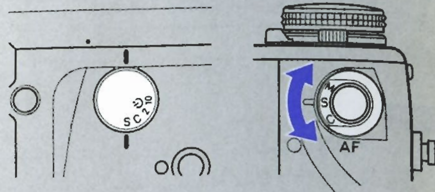
5 引きふたを抜いて引きふたポケットに入れます。



6 メインスイッチを“ON”にし、シャッターボタンを押してフィルムを1枚目まで巻き上げます。（P29）



7 ドライブモードを“S”、フォーカスダイヤルを“S”にセットします。（P31、36）

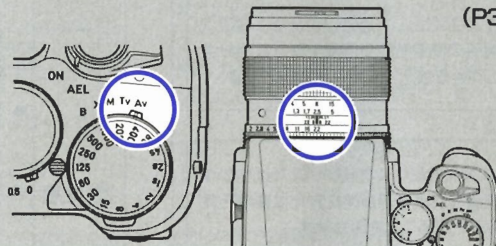


絞り優先オート撮影（P43）

シャッター優先オート撮影（P44）

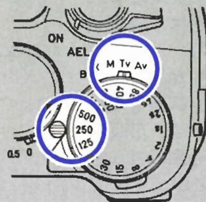
8 露出モードを “Av” にして、絞りをセットします。(P43)

9 ピントを合わせ、構図を決めて撮影します。(P34－40)



8 露出モードを “Tv” にして、シャッタースピードをセットします。(P44)

9 ピントを合わせ、構図を決めて撮影します。(P34－40)



安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

⚠警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

取り扱い上のご注意

〈カメラ使用上の注意〉

- このカメラは防水構造になっていませんので、雨天や水中では使用できません。万一水にぬれてしまったときは、早めに当社サービスステーションにお持ちください。
- レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロワーで軽く吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽くはらい、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。またミラー面のゴミやホコリは、レンズ刷毛で軽く払う程度にしてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので絶対に使用しないでください。

⚠注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙、発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また、予備の電池を携行してください。**

⚠警告	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ● カメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。 ● ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● カメラで、太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。 ● ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。

シャッター幕について

シャッター幕は非常に薄い材質でできています。絶対に指で突いたり触れたり拭いたりしないでください。ゴミやホコリを取り除くのにブロワーを使用するときは、軽く吹き飛ばす程度にしてください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

急にカメラが作動しなくなったとき

外部の強力な静電気等が原因で、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

〈カメラの保管について〉

● 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。

● カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈電池取り扱い上の注意〉

- 電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。
- 長期の旅行などには、予備の新しい電池を用意してください。
- 電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

 注意	● 金属製のピンセットのような導電性のあるもので電極に触れないでください。電池の消耗を早めるだけでなく、ショートして危険です。

⚠ 警告	● 次のようなことは絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ① このカメラで指定されている電池以外は、使用しないでください。 ② 電池を火の中に入れたり、充電ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。 ③ 新しい電池と使用した電池、違うメーカーや他の種類の電池を混ぜて使わないでください。 ④ 単3アルカリ乾電池や2CR5（6Vリチウム電池）は充電禁止です。絶対に充電しないでください。 ● 電池を廃棄する場合は、接点にテープを貼るなど絶縁してください。廃棄後他の金属と接触すると、破裂、発火の原因となります。 ● 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合、電池が壊れて電池の液で胃、腸などが損傷する恐れがありますので、直ちに医師と相談してください。

〈アクセサリー使用上のご注意〉

- 偏光フィルターは円偏光フィルターをご使用ください。

カメラの準備と基本操作

フィルムバックホルダーの取り付け／取りはずし

フィルムバックホルダーはフィルム室のことで、120/220フィルムインサートMFB-1Aまたは220バキュームフィルムインサートMFB-1Bにフィルムを装填してホルダーに入れて使用します。撮影途中でも自由にカメラボディに取り付け／取りはずしができますので予備のセットをお持ちになると次のような撮影でもすぐに対応ができます。

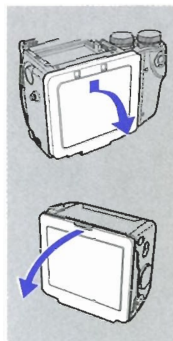
① カラーやモノクロフィルムまたは感度の異なるフィルムなどを必要に応じて撮り分けられます。

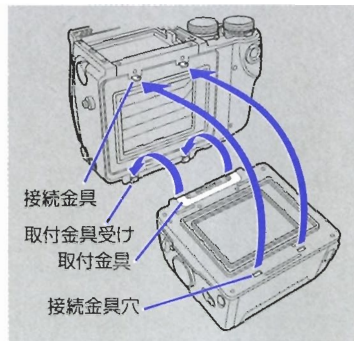
② 予備のホルダーにフィルムを入れておくと、素早く予備のホルダーに交換することができ、とぎれることなく撮影ができます。

シャッター幕について

シャッター幕は精密部品ですので、絶対に指で触れたりフィルムの先端で突いたりしないでください。
また、フィルムバックホルダーをカメラボディから取りはずしておくときは、シャッター幕保護のため必ずカメラボディのリアキャップをかぶせておいてください。

フィルムバックのメモホルダーに、フィルム化粧箱のふたを切り取って入れておくと、使用フィルムの種別がわかり、2個以上のフィルムバックホルダーを使用するときに便利です。



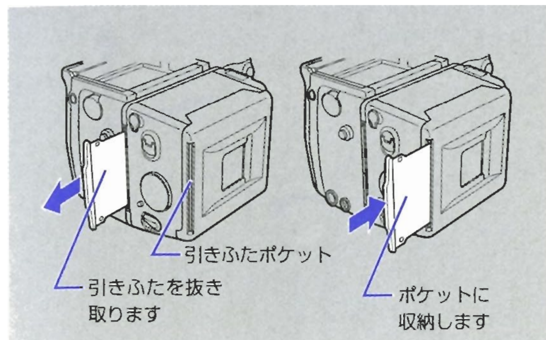


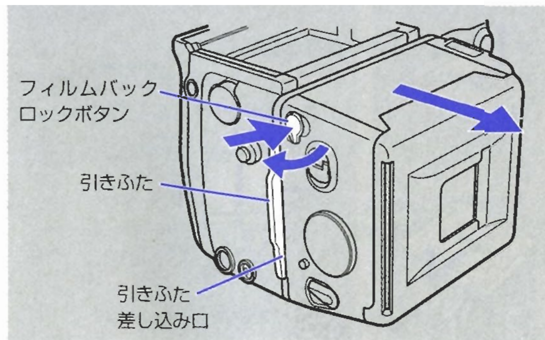
〈取り付け〉

取り付ける前にカメラボディのリアキャップとフィルムバックキャップをはずしてください。

1 **カメラボディ側下部の取付金具受けにフィルムバックホルダー下部の取付金具を正確にはめ込みます。**

2 **フィルムバックホルダーを下に押しつけながら、フィルムバック上部の接続金具穴をカメラボディの接続金具に確実にロックされるまで差し込みます。**





3 **引きふたを抜き取り、カメラバックの引きふたポケットに差し込みます。**

引きふたポケットは左右どちらからでも差し込めます。

- ポケットへの差し込みが不十分ですと紛失の恐れがあります。しっかりと固定されるまで奥へ差し込んでください。
- 引きふたは、フィルムバックホルダーがカメラボディからはずれているときは、抜くことができません。

引きふたを差し込み口から抜き取らないと、シャッターを切ることができない構造になっています。

〈取りはずし〉

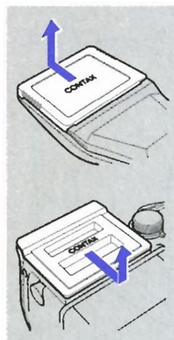
1 **引きふたを引きふた差し込み口に、"カチッ" とロックされて止まるまで差し込みます。**

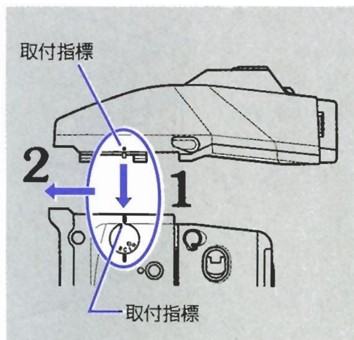
差込口はグレーの枠内です。

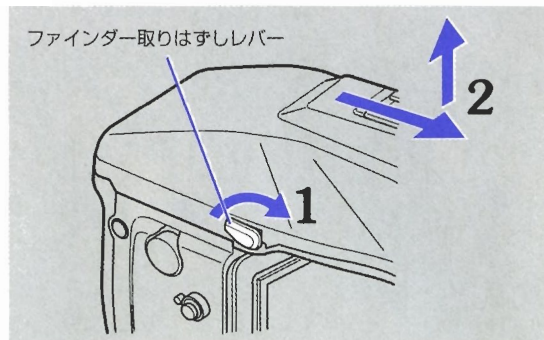
- 引きふたが完全に差し込まれていないと安全ロックが働き、カメラボディから取りはずせない構造になっています。

2 **フィルムバックロックボタンを矢印方向に回して押し込み、フィルムバックを取りはずします。**

AEプリズムファインダーの取り付け／取りはずし







〈取り付け〉

まず、ファインダーのキャップとカメラボディのトップキャップを取りはずします。

1 ファインダーの取付指標“●”をカメラボディの取付指標“▮”に合わせ、ファインダーをカメラボディにはめ込みます。

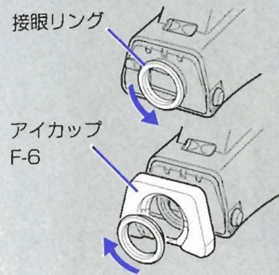
2 ファインダーを前方へ“カチッ”と音がしてロックするまでスライドします。

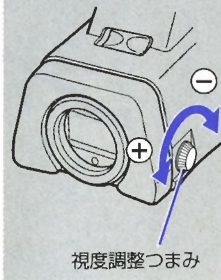
〈取りはずし〉

1 ファインダー取りはずしレバーを矢印方向に回しながらファインダーを後方にスライドさせます。

2 ファインダーの取付指標“●”をカメラボディの取付指標“▮”に合わせファインダーを上方向へ抜いて取りはずします。

- ファインダー取りはずしレバーから指を離すとレバーは自動的に元の位置に戻ります。
- 取りはずした後は、カメラボディ及びファインダーにそれぞれの保護キャップをかぶせておいてください。





〈アイカップF-6の取り付け〉

1 接眼リングを図のように回してはずします。

2 アイカップを接眼部に取り付けて、接眼リングをねじ込んで固定ください。

〈視度調整〉

このファインダーには視度調整機構が内蔵されています。視度調整つまみを回転させて、ファインダー内中央の円がはっきり見えるように調整してください。

調整範囲は－2.0D～＋1.0D（ディオプター）です。

● プリズムファインダーの視度調整機構の範囲内で視度調整ができない場合は、別売の視度補正レンズFMタイプをご利用ください。

視度調整範囲は表のようになります。

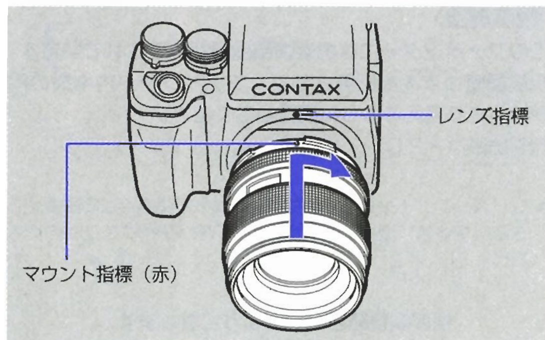
視度補正レンズ	調整範囲
なし	－2.0D ～＋1.0D
FM－3	－5.0D ～－2.0D
FM＋2	0D ～＋3.0D

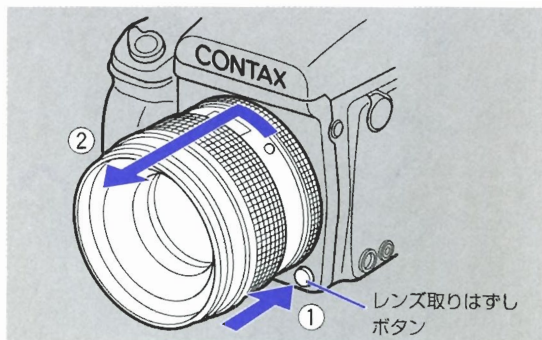
視度補正レンズの取り付けかた

カメラの接眼リングをはずして視度補正レンズをねじ込みます。

● 取りはずした接眼リングは、なくさないように保管してください。

レンズの取り付け／取りはずし





〈取り付け〉

まずカメラのボディキャップとレンズの後キャップをそれぞれに回してはずします。次にレンズ側のマウント指標とカメラ側のレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取り付けます。

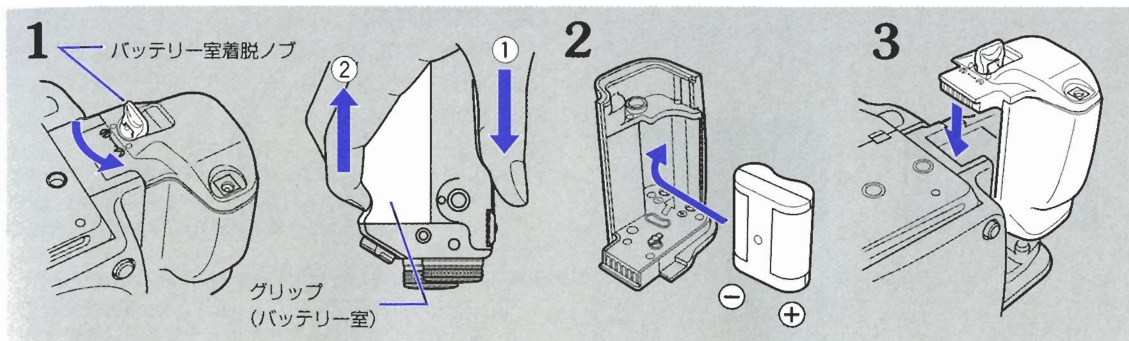
〈取りはずし〉

レンズ取りはずしボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引き出してはずします。

- レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れないでください。
- フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射日光を避けてください。
- カメラボディからはずしたレンズにはレンズキャップと後キャップ、またカメラボディにはボディキャップをかぶせて保護することを忘れないでください。

電池の入れかた

このカメラはフィルム巻き上げ、巻き取り、シャッターなどの機構が電池で作動するようになっています。電池が入っていないと作動しません。



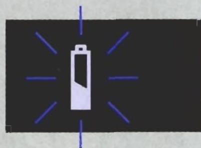
1 カメラ底部のバッテリー室着脱ノブを起こし、"●"マークを "⋑" に合わせ (⋐ → ⋑)、グリップをはずします。

親指でグリップ後部を矢印①の方向へ押しながら、人差し指でグリップ前部を矢印②の方向へ引くとはずれます。

2 6Vリチウム電池 (2CR5) をグリップ内バッテリー室の+−表示に従って正しく奥まで入れてください。

3 グリップをカメラの取り付け部に合わせてはめこみます。そして着脱ノブの "●" マークを "⋐" に合わせて閉めてください。





〈バッテリーチェック〉

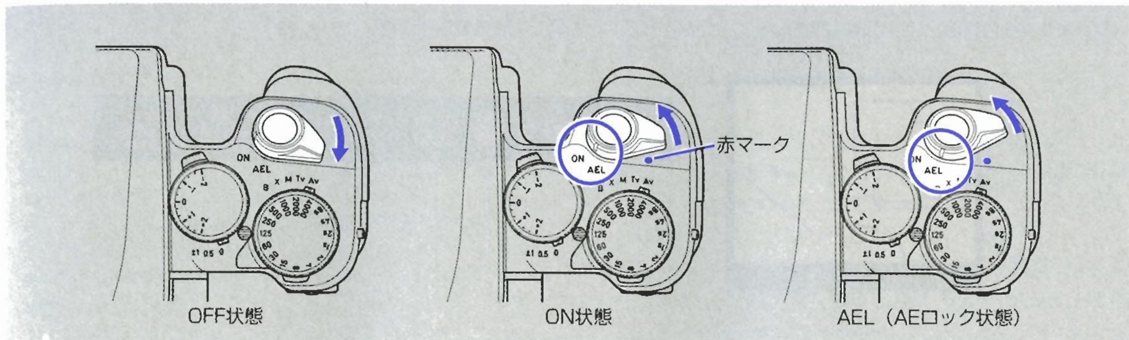
電池を入れた後、カメラを一度作動させてください。ファインダー内表示 に "▯"（バッテリー警告マーク）が表示されなければ、電池の電圧は正常です。

〈電池の交換時期〉

ファインダー内表示に "▯" マークが点灯したら、電池交換の時期です。メインスイッチを "OFF" にしてから新しい電池と交換してください。

- "▯" マークが点灯してからも撮影はできますが、すみやかに電池を交換してください。電池容量が使用限界を超えると、"▯" マークが点滅または全表示が消灯し、カメラは作動しなくなります。
- 電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し、"▯" マークが点灯することがあります。新品電池装着後すぐに "▯" マークが点灯した場合は、一度メインスイッチを "OFF" にし再度ONにしてください。この操作を行って "▯" マークが消えたらそのままお使いいただけます。

メインスイッチ



電源の“OFF”、“ON”および“AEL”（AEロック）の切り替えを行います。

● 誤作動を防ぐためメインスイッチは、クリックの位置にとめてご使用ください。

OFF：赤マークが見えないとき

カメラの電源が切れ、OFFの状態になっています。カメラを使わないときは、不用意にシャッターが切れないようにメインスイッチをOFFにしてください。

“ON”マーク

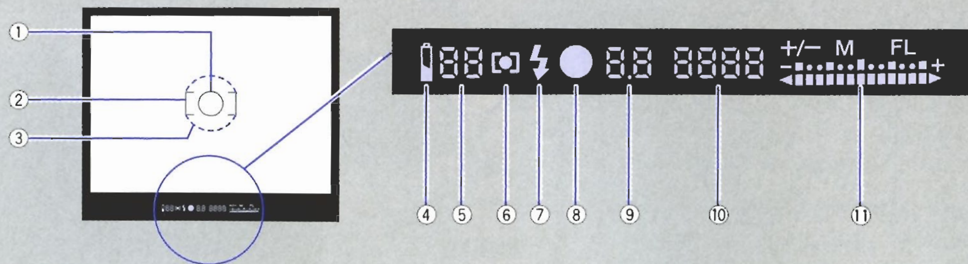
カメラの電源が入ります。

“AEL”マーク

逆光での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するなど、露出を固定（AEロック）したいときに使います。

● 詳しくはP54をご覧ください。

ファインダー内表示



ファインダー内表示は、次の操作をしたときに表示され、16秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

1. メインスイッチをONしたとき。
2. メインスイッチONの状態で、シャッターボタン半押しで表示されます。
   また表示中にダイヤル等を切り替えたときは、表示はさらに16秒間延長されます。

〈ファインダー内表示〉

ファインダー内表示は、絞り、シャッタースピードなどの表示の他に、フォーカス表示や露出メーターなどが表示される、情報集中ファインダーです。

① **スポット測光範囲**

② **フォーカスフレーム**

オートフォーカス時にピントを合わせを行う範囲です。

③ **プレ発光TTLストロボ測光範囲**

図中点線の範囲

④バッテリー警告マーク " "
電池の交換時期を表示します。

⑤フィルムカウンター
フィルムの撮影枚数を表示します。また、次のような表示もします。

- "－－" 点灯：フィルムバックが装着されていません。
- "00" 点灯：フィルムが入っていません。
- "－E" 点滅：フィルム巻き取り完了／空送り失敗。
- セルフタイマー作動残り時間
- A·B·C撮影時の撮影順序

⑥測光マーク " "
次の表示をします。
中央重点平均測光のとき："[ ]" マークが点灯します。
スポット測光のとき：" " マークが点灯します。
中央重点平均測光でAEロック："[ ]" マークが点滅します。
スポット測光でAEロック：" " マークが点滅します。

⑦ストロボマーク
TLAフラッシュシステム使用時、充電が完了すると " " マークが点灯します。またTTL調光が的確に行われたときは撮影後に2秒間点滅します。(P60)

⑧合焦マーク " "
" " 点灯：被写体にピントが合っています。
" " 点滅：ピント合わせができません。

⑨絞り値
絞り値は、使用レンズの絞り範囲内で1/2段階ごとに値が表示されます。ただし、1/2段のさらに間で作動するときは近い1/2段値で表示されます。(たとえば絞り値がf3.3のときは "3.5" と表示されます。)
絞り優先オート撮影 (Av) とマニュアル撮影 (M) のときはセットした絞り値を、シャッター優先オート撮影 (Tv) のときはシャッタースピードに応じた絞り値を表示します。また、シャッター優先オート撮影時には露出アンダー警告 (開放絞り値点滅) と、露出オーバー警告 (最小絞り値点滅) を表示します。

＊ "－－" が点灯しているときはレンズ未装着です。
＊スポット測光時、開放絞り値または最小絞り値以外の絞り値が点滅するときは、測光範囲外です。

⑩シャッタースピード

シャッタースピードは次のように表示されます。
シャッタースピードは1/4000秒から32秒までが表示され"4000"は1/4000秒、"125"は1/125秒、"8″"は8秒を表します。
カメラの露出モードが"Av"のときは絞りに応じた値を1/2段階ごとに、"Tv""M"のときはセットした値を表示します。
"X"にセットしたときは"90"が表示されます。
"B"にセットしたときは"buLb"と表示されます。
また、絞り優先オート撮影時には露出アンダー警告("32″"点滅)と、露出オーバー警告("4000"点滅)を表示します。
＊スポット測光時、"32"または"4000"以外のシャッタースピードが点滅するときは測光範囲外です。

⑪露出メーター

撮影モードにより次の表示をします。

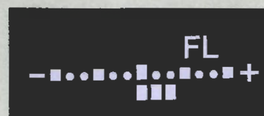
1. オート露出撮影時
(Tv、Av、モード)
露出補正量を表示します。
例：＋1.0EV補正



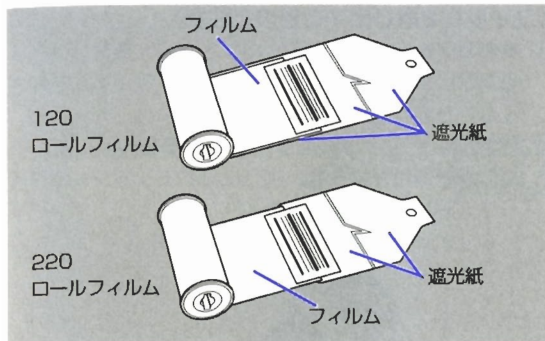
2. マニュアル露出撮影時
(Mモード)
マニュアル露出設定値と測光値の露出差を表示
例：2EV以上アンダー

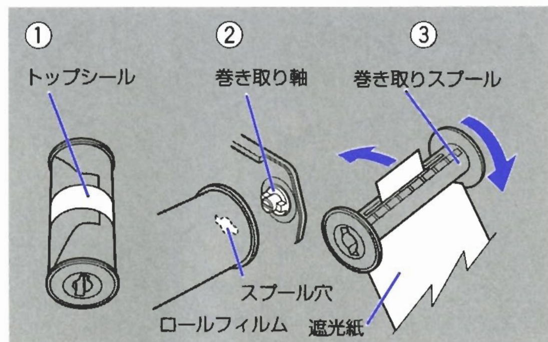


3. ストロボプレ発光時
ストロボメーター表示
例：0.7EVオーバー



120/220フィルムについて （初めてお使いになる方は必ずお読みください。）





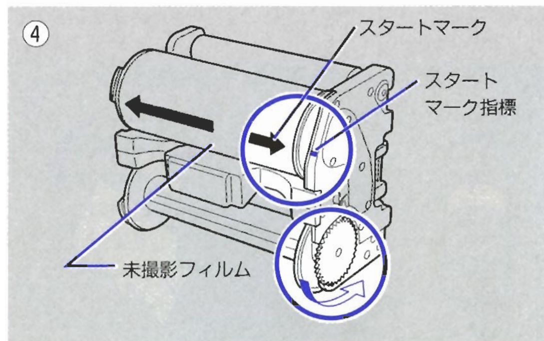
35mmカメラに使用するフィルムは、フィルムパトローネに入っていますが、120ロールフィルムは遮光紙を重ねたフィルムを、220ロールフィルムは遮光紙につないだフィルムをスプールに巻き付けた構造になっています。また、フィルムの巻き上げ、巻き取りは別の空きスプールに巻き付けて行います。**35mmフィルムとは取り扱いや装填方法が異なりますのでご注意ください。**

〈フィルムを入れるときのご注意〉

①トップシールは完全に取り除いてください。

②スプールのつばにある穴をカメラの巻き取り軸に合わせて正しく差し込まないと、巻き太りや螺旋状になって光漏れや給送トラブルの原因となります。

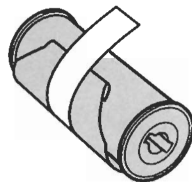
③フィルムの遮光紙先端部を、巻き取りスプール軸の溝に差し込んだあと、巻き取りが確実に行われるように溝から先端部を飛び出させて矢印方向に折り曲げ、スプールを回転させてしっかり巻き付けます。



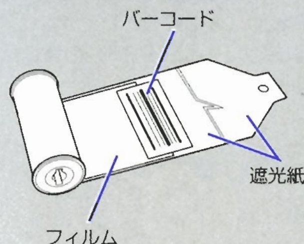
④ 遮光紙のスタートマーク（矢印）はスタートマーク指標に正しく合わせてください。スタートマーク指標より大幅に行き過ぎると、最後のコマが画面ぎれになることがあります。またフィルムの種類によっては、遮光紙に点線マークが出た後で、スタートマークが出てくるものもあります。点線に合わせないで必ずスタートマーク（矢印）に合わせてください。

〈フィルムを取り出すときのご注意〉

1. 撮影終了後フィルムを取り出すときは、巻き付けがゆるまないように指でしっかりつまみ、フィルムを押さえながら取り出します。
2. 取り出したフィルムは遮光紙の先端を内側に折り曲げ、巻き取りが緩まないようにしてエンドシールを湿らせて貼り付け固定します。



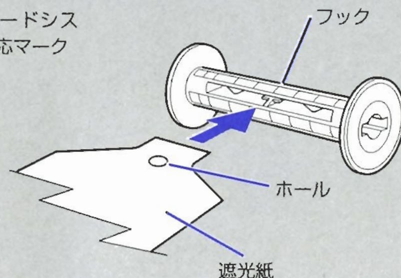
バーコードシステム対応フィルム





バーコードシステムとイージーローディング対応フィルムは、このマークが目印です。フィルムの化粧箱に表示されています。

イージーローディング機構



〈バーコードシステム対応フィルムの使用について〉

バーコードシステム対応のフィルムを使用すると、次のようにフィルム装填が簡単になります。

1. あらかじめフィルム感度ダイヤルを“—”にセットしておくと、フィルム空送りのときバーコードを読みとり、フィルム感度を自動的にカメラにセットします。
2. フィルム装填時のスタートマーク合わせが不要です。

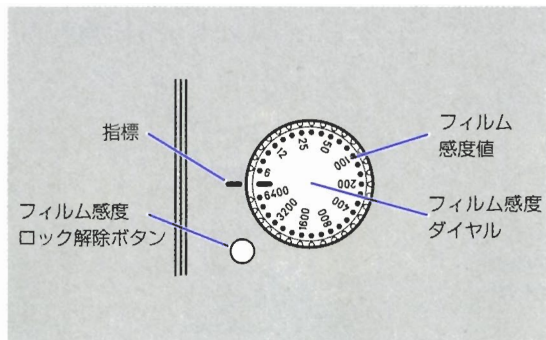
イージーローディング機構について

遮光紙をスプール溝に差し込むだけで簡単・確実なフィルム装填ができます。遮光紙先端部のホールをスプール溝に設けたフックに引っかける構造です。

自動セットされたフィルム感度の表示について

AEプリズムファインダー装着時、ミラーアップ状態で絞り込みボタンを押すと、ファインダー内表示に自動セットされたフィルム感度を表示します。

フィルム感度のセットのしかた



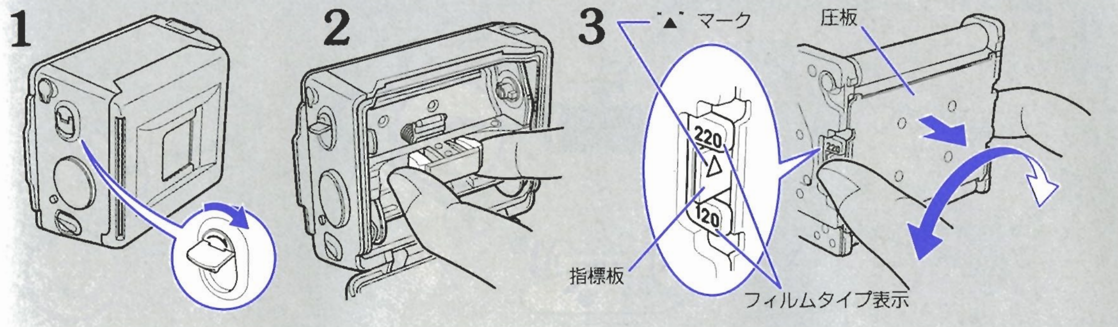
フィルム感度ロック解除ボタンを押しながらフィルム感度ダイヤルを回し、フィルム感度値を指標に合わせます。
設定範囲はISO 6～6400（1/3段ごと）です。
バーコードシステム対応フィルム（P25）の場合はオレンジ色の"—"にセットしてください。

● "—"にセット時、バーコードのないフィルムを入れるとISO 100に自動セットされます。

ダイヤル表示とISO値（＊は自動設定）

ダイヤル表示	—	6	●	●	12	●	●	25	●	●	50	●	●	100	●	●	200	●	●	400	●	●	800	●	●	1600	●	●	3200	●●	6400
ISO値	＊		8	10		16	20		32	40		64	80		125	160		250	320		500	640		1000	1250		2000	2500		4000 5000	

フィルムの入れかた



1 フィルムバックホルダーの裏ぶた開放ノブを起こし矢印方向に回して、裏ぶたを開けます。

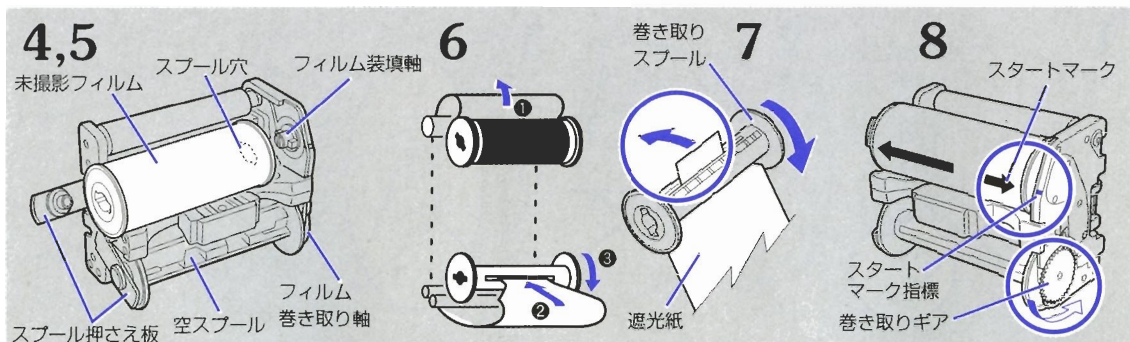
2 120/220フィルムインサートを取り出します。
中央部を図のように指でつまむとロックが解除されますので、そのまま取り出してください。

3 圧板後部の指標板をつまみ、矢印方向に引き出し回転させ、"▲" マークを使用するフィルムのタイプ（120または220）に合わせてセットします。

全巻遮光紙がある120ロールフィルムと、前後端のみ遮光紙がある220ロールフィルムでは、ピント位置が異なります。本機では圧板位置を切り替えて適正なピントが得られるようになっています。**必ず圧板位置を正しく切り替えてください。**

4 スプール押さえ板を開き、空のスプールを下側のフィルム巻き取り軸に差し込み、スプール押さえ板で固定します。

- スプール側面の穴 "◆" をフィルム巻き取り軸に正しく合わせてはめ込んでください。正しく合わせないと、巻き上げ／巻き取り故障の原因になります。



5 未撮影フィルムを上側のフィルム装填軸に差し込み、スプール押さえ板で固定します。

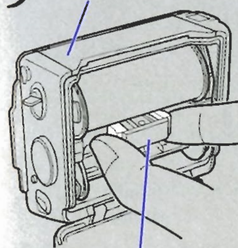
6 フィルムの遮光紙を約12cm位引き出し、図のように圧板の外側にそって巻き付け、遮光紙先端部を下側の巻き取り用スプールの溝に差し込みます。

● 遮光紙は引き出しすぎないようにしてください。引き出しすぎた場合にはスプール押さえ板を開き、フィルムをスプールごと取りはずし、巻き戻してください。この時フィルムの巻き具合が緩むと、漏光しますのでご注意ください。

7 遮光紙先端部溝から先端部を溝から飛び出させて矢印方向に折り曲げ、巻き取り用スプールを1回転させて折り曲げ部を遮光紙の内側にしっかり巻き込みます。

＊ バーコードシステム対応のフィルムを使用する場合は、次の8項の操作は不要です。そのまま9項へ進んでください。

8 フィルムの中央部を指で軽く押さえながら、巻き取りギアを回してスタートマークが出てくるまで巻き取り、スタートマーク指標に合わます。



9 フィルムインサートの着脱ボタンをつまんでフィルムバックに入れます。

入れた後、着脱ぼたんを押し込んで"カチッ"とフィルムバックに確実に装着されたことを確認してから裏ぶたを閉じます。

- フィルムタイプ表示窓に圧板のセット位置が表示されます。
- 裏ぶた開放ノブを倒して元の位置に収納してください。

10 メインスイッチを"ON"にしてシャッターボタンを押すと、フィルムが自動的に1コマ目まで空送りされ、フィルムカウンターは"01"になります。

フィルムカウンターは、カウンター窓とファインダー内に表示されます。

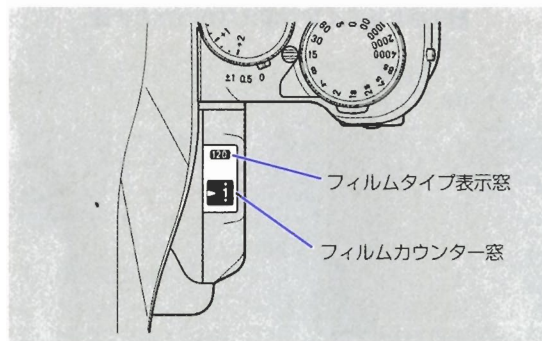
- ファインダー内フィルムカウンターが"01"点灯にならないときまたは、カウンター窓の表示が"S"のままのときはフィルムが正しく装填されていません。もう一度正しく装填し直してください。

■圧板を正しく切り替えなかったとき■

圧板セット位置	装填フィルム	
120	220タイプ	● ピントは合いません。 ● 16コマ撮影後巻き取ります。 ● バーコードシステム対応フィルムのときは、バーコード読み取り後カメラが停止し、ファインダー内に120と220が交互に点灯します。
220	120タイプ	● ピントは合いません。 ● 16コマ撮影後さらにシャッターを数回切って遮光紙端面が圧板までくると、巻き取ります。 ● バーコードシステム対応フィルムのときは、バーコード読み取り後カメラが停止し、ファインダー内に120と220が交互に点灯します。

- 圧板を正しく切り替えずにフィルムを装填したときは、フィルムを巻き取って新しいフィルムを入れてください。

フィルムカウンターおよびフィルムタイプ表示窓



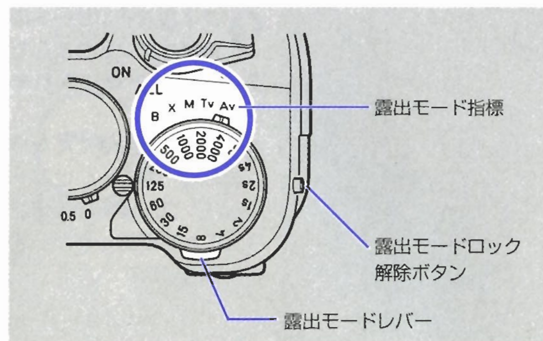
〈フィルムカウンター窓〉

フィルムカウンターはファインダー内とフィルムカウンター窓に表示されます。カウンター窓の表示はS（スタート）から始まり120タイプは1から16まで、220タイプは1から32まで順算式で表示されます。

〈フィルムタイプ表示窓〉

圧板のフィルムタイプセット位置（120または220）を表示します。

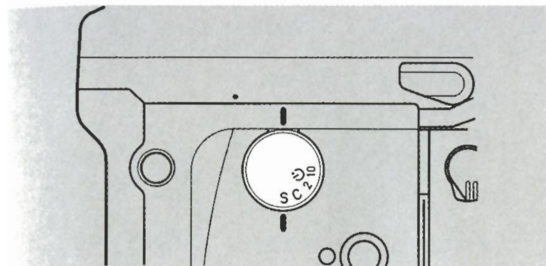
露出モードレバー



露出モードの切り替えに使用します。**露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを回し、露出モード指標をそれぞれの位置に合わせてください。**

● 各露出モードの詳細は、P42～48をご覧ください。

ドライブモードダイヤル



撮影目的に応じて、次のドライブモードが選べます。

"S" ・・・1コマ撮影

カメラのシャッターボタンを押すごとに1コマ撮影され、次の巻き上げが行われて停止します。

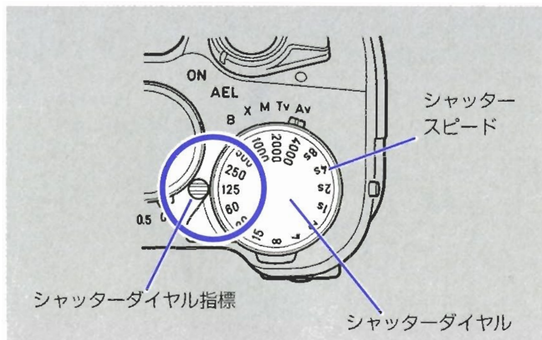
"C" ・・・連続撮影

カメラのシャッターボタンを押している間、最高約1.6コマ/秒の連続撮影ができます。(撮影コマ速度は、シャッタースピードやフィルム感度、使用する電池の状態などにより変化します。)

"⏲2"、"⏲10" ・・・セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影になります。詳しくはP68をご覧ください。

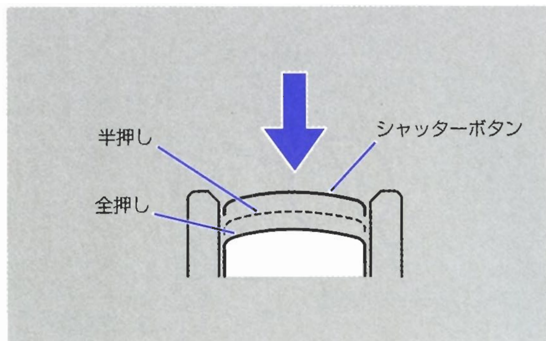
シャッターダイヤル



撮影フィルムへの露光時間(シャッタースピード)を調節するダイヤルで、"Tv"(シャッター優先オート)および"M"(マニュアル露出)のとき使用します。シャッタースピードは、8S(8秒)~4000(1/4000秒)の範囲(1段ごと)にシャッターダイヤル指標に合わせてセットします。

- シャッターダイヤルはクリックの位置に止めてご使用ください。

シャッターボタンの操作



シャッターボタンの操作は2段階になっています。

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内表示が点灯し、オートフォーカスや測光機能が作動します。さらにシャッターボタンを押し込む（全押し）とシャッターが切れ撮影が行われます。

- フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押して、半押しの感覚をつかんでください。
- シャッターボタンはカメラぶれ防止のためにも、指の腹で静かに押してください。

カメラの構えかた

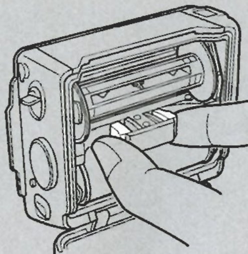


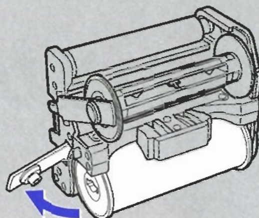
ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。
カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも効果的な方法です。

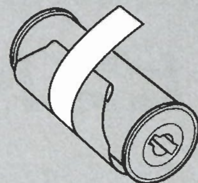
- 暗いところの撮影などで、シャッタースピードが遅くなるときは三脚とケーブルスイッチLAタイプのご使用をおすすめします。

フィルムの規定枚数が終了したら

1


2


3


4 遮光紙先端を内側に折り曲げてシールで止めます。


1 **フィルムの規定枚数を撮り終えると、自動的にフィルムを最後まで巻き取って停止し、ファインダー内フィルムカウンターに"-E"が表示されます。**

- 6枚撮りフィルム（本機では8枚撮りになります。）使用時は自動巻き取りになりません。途中巻き取りボタンを押して巻き取ってください。

2 **裏ぶたを開けフィルムインサートを取り出します。**

3 **スプール押さえ板を開いて、撮影済みフィルムを取りはずします。**

4 **取りはずした撮影済みフィルムは、ゆるまないように、フィルムに付いているシールで止めてください。**

- フィルム取りはずしは直射日光を避けてください。
- 撮影済みフィルムは早めに現像に出しましょう。
- 空になった上側のスプールは、下側に移しておくと、次のフィルム装てんのとき便利です。

フィルムの途中で巻き取るときは、途中巻き取りボタンを押してください。**（針など鋭く尖ったものでは押さないでください。）**

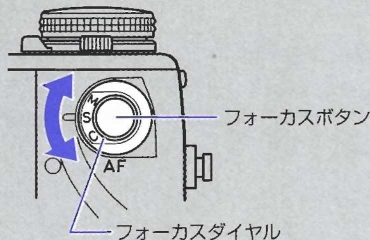
ピントの合わせかた

このカメラのピント合わせは、自動で行うオートフォーカスと
手動で行うマニュアルフォーカスがあります。
オートフォーカスには、シングル・オートフォーカス "S" と、
コンティニュアス・オートフォーカス "C" があります。
さらに、シングル・オートフォーカス時には手動でピント微調
整（P36)、マニュアルフォーカス時にはワンショット・オート
フォーカス（P40）ができます。
被写体に応じて使い分けてください。

ドライブモードとフォーカスモードの関係及びフォーカスボタンの機能

フォーカスモード ドライブモード	“S”（シングル・オートフォーカス）	“C”（コンティニュアス・オートフォーカス）	“M”（マニュアルフォーカス）
“S” 1コマ撮影	シャッターボタン半押しでピント合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントを固定（フォーカスロック）します。 ● ピントが合わないと、シャッターが切れません。	シャッターボタン半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。 ● ピントが合わせができなくてもシャッターを切ることができます。	手でレンズの距離リングを回してピント合わせを行います。
“C” 連続撮影	ピント合わせは1コマ撮影と同じ。 連続撮影時は最初のコマ（写真）でピントを固定しての撮影になります。	ピント合わせは1コマ撮影と同じ。 連続撮影時は、1コマごとにピントを合わせ直します。	ピント合わせは1コマ撮影と同じ。
フォーカスボタンの機能	ピント合わせができず、シャッターが切れないとき、フォーカスボタンを押すと、シャッターを切ることができます。	フォーカスボタンを押すと、フォーカスロックします。 手動でピントの微調整ができます。	フォーカスボタンを押すと、カメラが自動的にピント合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントを固定します。（ワンショット・オートフォーカス）

オートフォーカスによるピント合わせ





1 フォーカスダイヤルを、“S” または “C” にセットします。

2 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

自動的にピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内の合焦マーク “ ” が点灯します。

3 そのままシャッターボタンを押し込んで撮影してください。

手動でのピントの微調整

フォーカスモードが “S” のとき、合焦マークが点灯中に手でレンズの距離リングを回すと、自動的にマニュアルフォーカスに切り替わり、ピントの微調整をすることができます。

"S" シングルオートフォーカスのとき

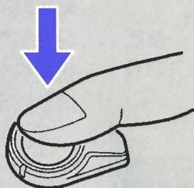
静止している被写体の撮影など一般的な撮影の場合におすすめします。
シャッターボタン半押しでピント合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントを固定（フォーカスロック）します。

- ピントが合うとシャッターが切れ、ピントが合わないとシャッターは切れません。
- ドライブモードが連続撮影（C）の時は、最初の写真でピントが固定し、そのピント位置での連続撮影になります。
- ピント合わせができないときは、ファインダー内合焦マークが点滅しシャッターが切れません。等距離にある別の被写体でフォーカスロックして撮影してください。
- ファインダー内合焦マークが点滅中でも、シャッターチャンス優先で撮影したいときは、フォーカスボタンを押しながらシャッターボタンを押してください。シャッターを切ることができます。

"C" コンティニュアス・オートフォーカスのとき

動きのある被写体を連続的に追う場合におすすめします。
シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。ピントが合っていることを確認して撮影してください。

- 連続撮影 "C" では1コマごとにピントを合わせ続けながらの連続撮影になります。
- ファインダー内合焦マーク " " が点滅表示し、ピント合わせができないときでもシャッターボタンを押すとシャッターが切れます。
- 被写体の動きや変化により、ピント合わせが連続撮影に追従できない場合があります。


〈フォーカスロック〉

オートフォーカスのとき、構図によってピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームからはずれる場合には、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影します。

■シングルオートフォーカス“S”のとき

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

ピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内合焦マーク“●”が点灯し、その位置でフォーカスロックされます。

2 シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- シャッターボタンを半押ししている間はピントはロックされていますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
- フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

■ コンティニュアス・オートフォーカス"C"のとき

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。

2 ファインダー内合焦マーク が点灯していることを確認して、フォーカスボタンを押してください。

フォーカスボタンを押したところでフォーカスロックします。

3 フォーカスボタンを押したまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- フォーカスボタンを押している間、ピントはロックされています。

〈オートフォーカスの苦手な被写体〉

オートフォーカス機能を使っても、次のような被写体はピント合わせが難しいので、ファインダー内合焦マーク" "が点滅することがあります。このようなときは、フォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせてから撮影を行うか、マニュアルフォーカスでピント合わせを行ってください。

①非常に明るいか非常に暗い被写体。
②被写体のコントラストが極度に低いとき。
③フォーカスフレーム部やその周辺に太陽光などの強い光源があるとき。
④フォーカスフレーム内に極度に距離の違う2つ以上の被写体が共存するとき。
⑤繰り返しパターンが続く被写体。
⑥NDフィルターや偏光フィルターなどにより、被写体からの光量が極端に少なくなった場合。

〈距離リングの動きについて〉

オートフォーカス撮影時、最短撮影距離または無限遠(∞)端で距離リングが少し動くことがありますが、性能上問題はありません。

マニュアルフォーカスによるピント合わせ





フォーカスダイヤルを"M"にセットします。
ピント合わせは、手動でレンズの距離リングを回して行います。

このカメラはフォーカシングスクリーンMFS-2（全面マット、AFターゲット付）が標準装備されています。
ピントが合っているときは、マット面の像がはっきりと見え、ピントが合っていないとボケます。
またピントが合うと、ファインダー内合焦マーク" "が点灯します。

＊フォーカシングスクリーンは撮影目的や用途に応じて交換することができます。詳しくはP92をご覧ください。

〈ワンショット・オートフォーカス〉

マニュアルフォーカス撮影中でも、オートフォーカスが使用できます。フォーカスボタンを押すと、押している間カメラがピントを合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントが固定します。
ワンショット・オートフォーカスとしてご利用ください。

基本的な撮影

露出モードの選択

撮影目的や用途に応じて、次の露出モードが選べます。

Av：絞り優先オート

絞りをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的にシャッタースピードをセットします。被写界深度を利用しての撮影に適しています。

Tv：シャッター優先オート

シャッタースピードをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的に絞りをセットします。動きのあるスポーツなどの撮影に適しています。

M：マニュアル露出

絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。

X：ストロボ撮影

当社専用ストロボ連動接点のない、X接点のみの汎用ストロボを使用するときに、この位置にします。

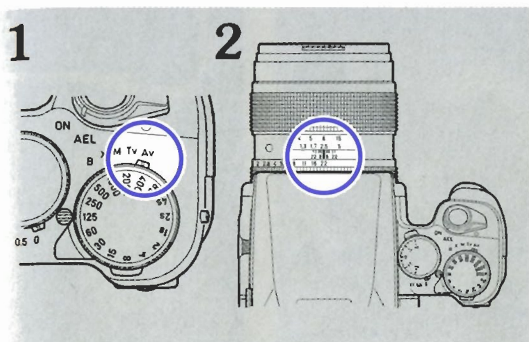
シャッタースピードは1/90秒になります。

詳しくは、「TLAストロボ以外のX接点を利用した他のストロボによる撮影」P66をご覧ください。

B：バルブ

長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うときに使用します。

絞り優先オート撮影 [Av]



1 露出モードレバーを "Av" にセットします。

2 絞りをセットし、撮影します。

レンズの絞りリングを回して絞りをセットすると、絞りに応じた適正シャッタースピードが自動セットされ、ファインダー内に、セットした絞りと自動セットされたシャッタースピードが点灯します。
シャッターダイヤルはどの位置にセットしていてもかまいません。



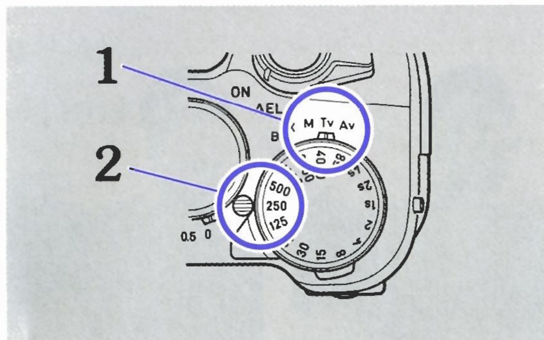
作例1：絞りを開けた場合
絞りを開けて撮影すると、鮮明に写る範囲（＊被写界深度）が狭くなります。被写体を浮かび上がらせ、背景をぼかしたいときなどに利用します。



作例2：絞りを絞り込んだ場合
絞りを絞り込んで撮影すると鮮明に写る範囲（＊被写界深度）が広くなります。被写体も背景も鮮明に写したいときなどに利用します。

目的に合わせて絞りを調節してください。また、被写界深度の詳細はP74をご覧ください。

シャッター優先オート撮影［Tv］







1 **露出モードレバーを“Tv”にセットします。**

2 **シャッタースピードをセットし、撮影します。**

シャッターダイヤルを回してシャッタースピードをセットすると、シャッタースピードに応じた適正絞りが自動セットされ、ファインダー内に、セットしたシャッタースピードと自動セットされた適正絞りが点灯表示します。絞り目盛はどの位置にセットしていてもかまいません。

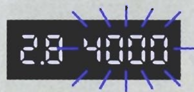
作例1：速いシャッタースピード
被写体の動きの瞬間を撮影したいときは、速いシャッタースピードにセットします。

作例2：遅いシャッタースピード
水の流れ等を表現したいときは、遅いシャッタースピードにセットします。

● 遅いシャッタースピードのときはカメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

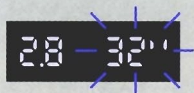
オート露出撮影時の露出警告表示

〈露出モード“Av”時〉
露出オーバー警告



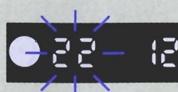
シャッタースピード
“4000”点滅

露出アンダー警告



シャッタースピード
“32''”点滅

〈露出モード“Tv”時〉
露出オーバー警告



“最小絞り値”点滅

露出アンダー警告



“開放絞り値”点滅

オート露出撮影時は露出制御範囲外のときは、ファインダー内に上記のような警告表示がでます。その時は次のように点滅表示が点灯表示になるように調整してください。

露出オーバー警告

絞り優先オート撮影時には“4000”が点滅、シャッター優先オート時には装着レンズの“最小絞り値”が点滅し露出オーバーの警告をします。被写体が明るすぎますので、絞りまたはシャッタースピードを調整し直して、点滅表示が点灯表示になるようにしてください。また、別売りのNDフィルター（光量制限用）で光を調整することもできます。

露出アンダー警告

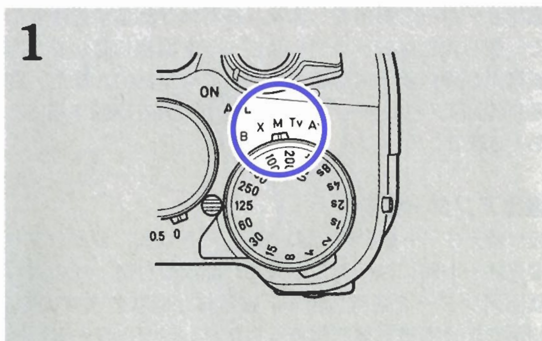
絞り優先オート撮影時には“32''”が点滅、シャッター優先オート時には装着レンズの“開放絞り値”が点滅し露出アンダーを警告します。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、シャッタースピードや絞りを変えて点滅表示が点灯表示になるようにしてください。また、専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

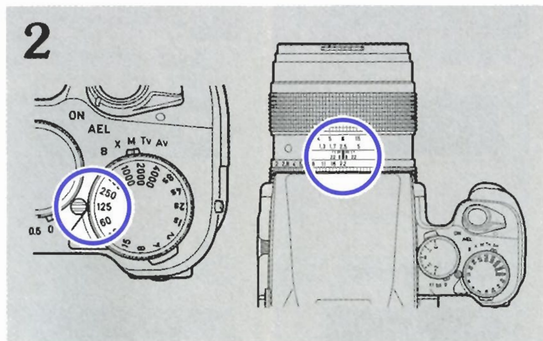
- 露出オーバー／アンダー警告時でも、シャッターボタンを押せば撮影できます。

測光範囲外警告

スポット測光時、絞り優先オート撮影時はシャッタースピードが点滅、シャッター優先オート撮影時は絞り値が点滅します。

マニュアル露出撮影［M］





1 **露出モードレバーを“M”にセットします。**

2 **シャッタースピードと絞りをセットし、撮影します。**
シャッタースピードはシャッターダイヤルで、絞りはレンズの絞りリングでセットします。

ファインダー内には、セットしたシャッタースピードと絞りが点灯表示されます。
露出メーターにはセットした測光モードでの適正露出との差が点灯表示されます。シャッターダイヤルまたはレンズの絞りリングを動かし、露出メーター表示を“適正”にして撮影してください。

露出メーター表示例

1EVオーバー

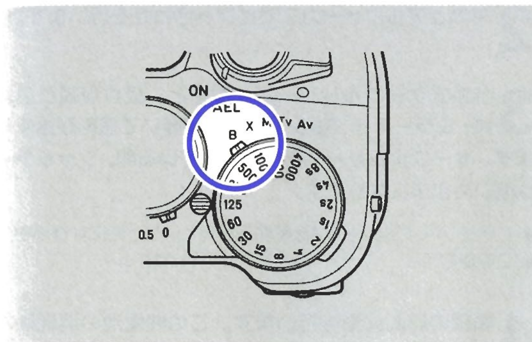


適正



2EV以上アンダー





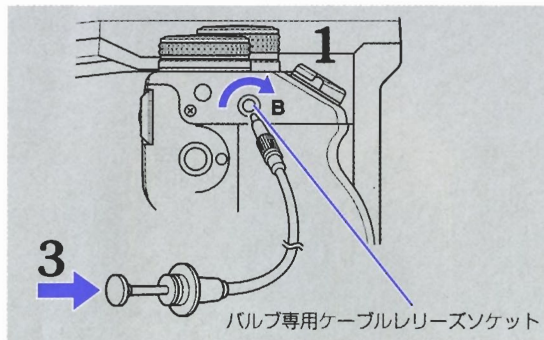
1 露出モードレバーを "B" にセットします。

ファインダー内シャッタースピード表示部に "buLb" が表示されます。

2 絞りをセットし撮影します。

シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

- カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売のケーブルスイッチＬＡタイプをカメラに接続して撮影してください。
- 露光中は、ファインダー内表示がすべて消えます。



〈バルブ専用ケーブルレリーズソケット〉

市販のメカ式ケーブルレリーズを接続することにより、任意の時間だけシャッターを開くことができます。前記のバルブ撮影に比べ、露光中の電池の消耗がなくなります。天体写真のように長時間の露光を要する撮影時に利用します。

1 図のようにメカ式ケーブルレリーズを取り付けます。

2 マニュアルフォーカスでピント合わせを行います。

3 メカ式ケーブルレリーズを押すと、絞りが絞り込まれ、ミラーアップ後シャッターが開いて撮影が始まります。ケーブルレリーズをロックしている間、シャッターは開いたままになります。

- この時ファインダー内は液晶表示が消え、まっ暗になります。
- この撮影では、データの写し込みは行いません。

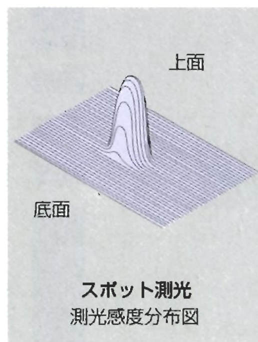
4 希望の時間撮影を行います。この間電池の消耗はありません。

5 メカ式ケーブルレリーズのロックを解除するとシャッターが閉じ、撮影が終了します。

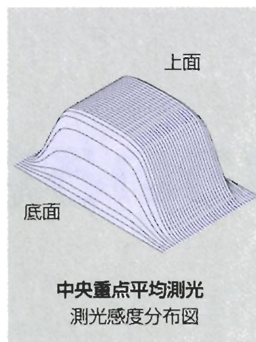
- カメラに電池が入っていないと作動しません。
- 撮影モードはどの位置でもかまいません。
- ロック時にケーブルが少し戻るようなメカ式ケーブルレリーズは、シャッターを開いたままにできない場合がありますので、事前にテストしてください。このようなケーブルレリーズの場合は、ロック機構を使わずにケーブルレリーズを手で押しながら撮影してください。

いろいろな撮影

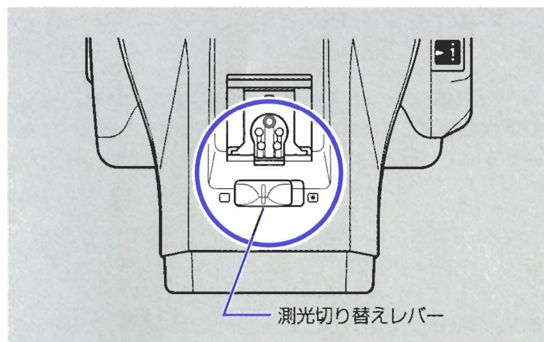
測光方式



スポット測光
測光感度分布図



中央重点平均測光
測光感度分布図



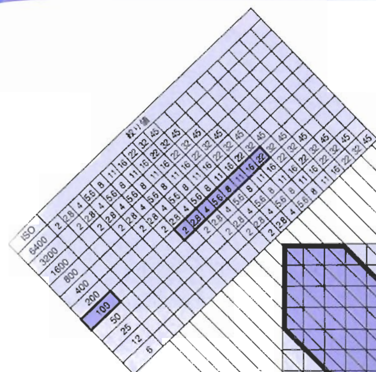
このカメラにはスポット測光が標準装備され、プリズムファインダーを取り付けるとさらに中央重点平均測光が使用できます。中央重点測光にはプリズムファインダーの測光レバーで切り替えます。撮影条件や撮影意図により使い分けると、より精度の高い効果的な写真撮影が行えます。

〈スポット測光〉（[●]マーク）

ファインダー画面中央のほぼ円内にあたる被写体の明るさのみ測光して、露出を決める方式です。厳密な露出決定ができます。

〈中央重点平均測光〉（[ ]マーク）

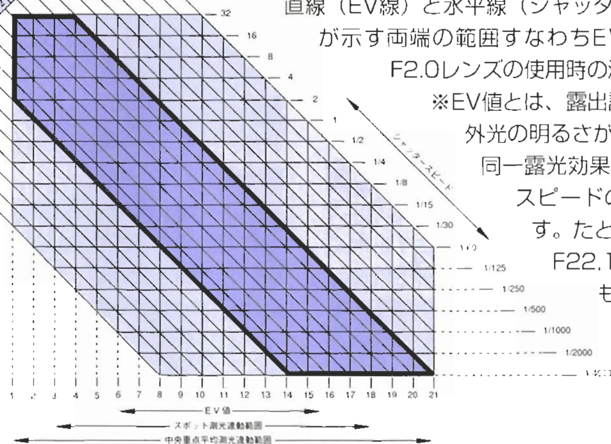
主にファインダー画面中央部の被写体の明るさを重点的に、かつ周辺部の明るさも加味して測光を行い、露出値を決定する方式です。光の変化が激しいところでもよく対応し、速写性に優れています。



〈測光連動範囲〉

表は、絞り、シャッタースピード、EV値の相互関係を示すもので、使用レンズの測光連動範囲を表しています。たとえば中央重点平均測光時にISO100のフィルムでF2.0レンズを使用した場合、絞り表のISO100の項の"2.0"と"22"（プラナーT* 80mmの最小絞り値はF22です）から斜めに延長した線上で垂直線（EV線）と水平線（シャッタースピード線）が交わる点が示す両端の範囲すなわちEV"1"からEV"21"がF2.0レンズの使用時の測光連動範囲です。

※EV値とは、露出計の連動範囲を示す数値で、外光の明るさが一定のときに、フィルムに同一露光効果を与える絞りとシャッタースピードの組み合わせを示すものです。たとえば、表によりEV13では、F22,1/15秒でもF8,1/125秒でも同じ露光効果が得られることがわかります。



範囲内に色で表示してあるシャッタースピードの32秒から1/4000秒は、オート露出撮影時にカメラが正常に測光を行う範囲です。

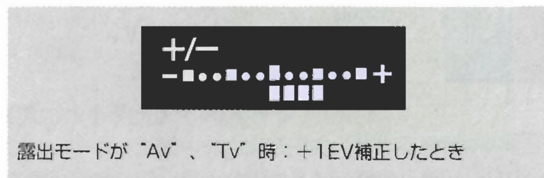
■範囲内に色で示してある部分は、ISO100フィルムで80mmF2.0レンズ使用時の中央重点平均測光・測光連動範囲を示します。

露出の補正

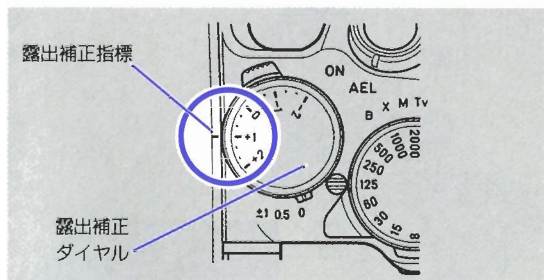
撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、次の3通りの露出補正方法があります。

〈1．露出補正ダイヤルの利用〉

露出モードが“Av”、“Tv”、“M”いずれの場合も通常は露出補正ダイヤルを“0”にセットしておきますが、露出を補正するときは、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を露出補正指標に合わせてください。補正値は＋2EV～－2EVまでの範囲内で1/3EVごとにセットすることができます。露出補正ダイヤルを“0”以外に合わせると、ファインダー内に、補正に合わせて“+/−”マークと露出メーターには補正値が表示されます。



露出モードが“Av”、“Tv”時：＋1EV補正したとき



露出モードが絞り優先オート（Av）時はシャッタースピードが、シャッター優先オート（Tv）時は絞りが変化して露出補正を行います。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
ｼｬｯﾀｰ優先ｵｰﾄ（Tv）	絞り

- “M”時は、露出補正ダイヤルによる露出補正はできません。ファインダー内には“+/−”が点滅表示します。露出メーターにはセットした露出補正ダイヤルの値を基準にした適正露出との差が表示されます。
- 撮影終了後は、必ず補正ダイヤルを“0”に戻してください。


（＋補正）


（補正なし）


（－補正）

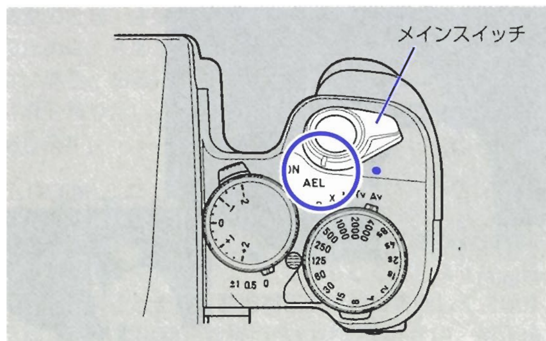

（補正なし）

逆光撮影などのときは・・・
"＋1/3" ～ "＋2" の範囲で補正します。

中央重点平均測光の場合、逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を＋1/3～＋2の範囲で補正して、露出を多く与えます。

暗い背景などのときは・・・
"－1/3" ～ "－2" の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、中央重点平均測光で撮影すると人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を－1/3～－2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。



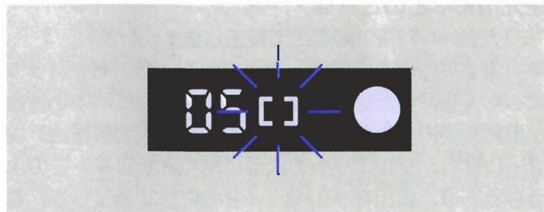
〈2．AEロックの利用〉

オート露出撮影時に、被写体の露出（絞りとシャッタースピードの組み合わせ）を記憶する機構です。逆光時での撮影や動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど、露出を固定したいときに使います。メインスイッチを“AEL”にセットすると、セット時点の露出がカメラに記憶され、そのままシャッターボタンを押すと背景や明るさの変化に関係なく記憶された露出でシャッターが切れます。

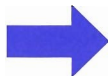
1 **意図する構図のうち、まず主要被写体にファインダーの中央部分を向け、メインスイッチを“ON”→“AEL”に切り替えます。これで露出が固定（AEロック）されます。**

特に狭い範囲に露出を合わせたいときは、測光モードをスポット測光にしてAEロックしてください。

- AEロック中は、ファインダー内の測光マークが点滅に変わります。
- AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。









2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

- AEロック中は、露出が記憶され続け、何度でも同じ露出値で撮影できます。表示は省電のため16秒経過後に消灯します。
- 連続撮影（ドライブモード"C"）するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。

- このカメラは、シャッタースピードと絞りの組み合わせで得られる露出を記憶する、像面光量記憶方式を採用しています。例えば、"Av"のときは、AEロック後に絞りを変えるとシャッタースピードも追従して変化し、全体の露出量を一定に保ちます。
- AEロック中に露出補正ダイヤルを変更すると、露出は次のように変化します。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
シャッター優先オート（Tv）	絞り

〈3. A･B･C撮影（3コマ連続自動露出補正）〉

このモードにセットすると、自動的にスタンダード、オーバー、アンダー、と3段階の露出バリエーションで連続撮影ができます。

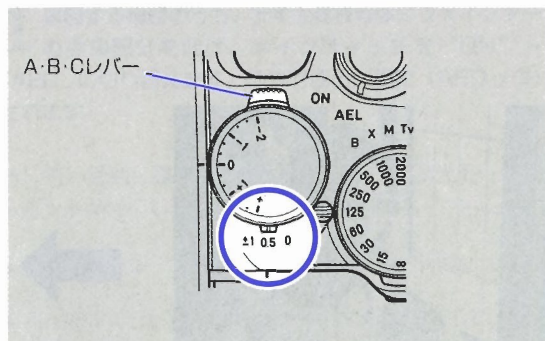
非常に微妙な露出条件のもとででも、露出決定に気を取られることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。

※A･B･C：Automatic Bracketing Control

A･B･C撮影は、シャッタースピードまたは絞りをコントロールして自動露出補正を行います。

露出モード	コントロール内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
シャッター優先オート（Tv）	絞り
マニュアル（M）	シャッタースピード

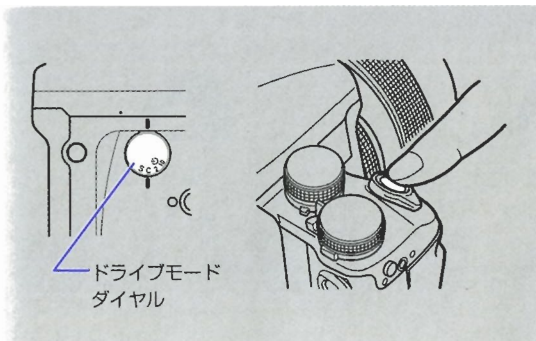
● 補正値が制御範囲を越えるときは、制御限界値で撮影されます。



1 **A･B･Cレバーを動かし、補正幅をセットすると、A･B･C撮影に切り替わります。補正幅は±0.5EV、±1EVの2種類が設定できます。**

● 露出補正ダイヤルを“0”以外にセットすると、その補正値を基準にしたA･B･C撮影になります。

● 撮影するごとに測光しなおし、その時の測光値に対して補正を行います。周囲の明るさの変化による影響を受けずにA･B･C撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをしてから撮影することをおすすめします。



- A·B·C撮影が終了したら、必ずA·B·Cレバーを“0”に戻してください。
- ストロボを併用するA·B·C撮影はできません。

2 ドライブモードを連続撮影“C”にして、シャッターボタンを押し続けます。

セットした補正幅に従って、スタンダード、オーバー、アンダー、の順で撮影し、3コマ撮影し終わると止まります。

ドライブモードを“S”にすると1コマごとのA·B·C撮影になります。
ドライブモードを“2または10”にすると、2秒または10秒後に連続撮影によるA·B·C撮影になります。

A·B·C撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。

スタンダード：両方の桁が同時点滅
オーバー　　：左側の桁のみが点滅
アンダー　　：右側の桁のみが点滅



フィルムカウンター


スタンダード


オーバー


アンダー

例えば8コマ目からA·B·C撮影を行った場合は次のようになります。

	1コマ目	2コマ目	3コマ目	(以後繰り返し)
補正：	スタンダード	オーバー	アンダー	スタンダード
カウンター：	08	09	10	11
表示：	左右同時点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

- 補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。
- 途中で中止するときは、A·B·Cレバーを "0" にしてください。
- A·B·C作動中にメインスイッチを "OFF" にして再度 "ON" にすると、A·B·C撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。

ストロボ撮影

室内や夜間の撮影で、シャッタースピードが1/30秒以下になるときは、ストロボの使用をおすすめします。このカメラとコンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせるとカメラ側でストロボ光を自動制御する“TTLダイレクト測光”による撮影が行えます。またストロボプレ発光機構は、撮影前にストロボを発光させてTTL測光を行う機構で、従来と比べ、より正確な露出でストロボ撮影が行えます。このストロボプレ発光機能は、コンタックスTLAストロボおよび、専用ストロボ連動接点のないX接点のみの汎用ストロボも使用できます。
TLA360ストロボをご使用のときは、必ず「別売アクセサリー“CONTAX TLA360ストロボ”」の項P79を併せてご覧ください。

TLAストロボ照射角セット時のご注意
TLAストロボの照射角（ズーム目盛）は､35mmカメラ用として画角（焦点距離）表示されます。またコンタックス645と35mmカメラとはレンズの画角や撮影画面の縦横比が異なります。**ストロボ撮影するときは必ずP76の対比表に従って、ストロボの照射角をセットしてください。**

〈TTLダイレクト測光による撮影〉

1 カメラのアクセサリーシューにストロボを取り付け、ストロボの電源を入れます。

- ズームストロボの場合はP76の対比表に従って照射角（ズーム　目盛）をセットしてください。

2 ストロボを“TTLオートモード”にセットします。
充電が完了するとファインダー内に“⚡”マークが点灯しカメラの露出モードにより次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

■ Av（絞り優先オート）のとき

自然光の測光値	自動セット シャッタースピード	（表示）
32秒 ～ 1/60秒	1/60秒	"60" が点灯
1/60秒～1/125秒	1/60秒～1/125秒	"60" が点灯～ "125" が点灯
1/180秒～1/4000秒	1/125秒	"125" が点滅*

＊ストロボ充電完了後、シャッタースピード表示の“125”が点滅した場合は、絞りを絞り込んで“125”を点灯にして撮影してください。

Tv（シャッター優先オート）のとき

シャッターダイヤルのセット	自動セット シャッタースピード	（表示）
8秒～1/125秒	8秒～1/125秒（シャッターダイヤルのセット値のまま）	
1/250秒～1/4000秒	1/125秒	"125" が点灯

M（マニュアル）、X（ストロボ）、B（バルブ）のとき

- "M" のときはシャッタースピードが自動セットされません。必ず1/125秒以下にセットしてください。
- 1/125秒で同調しない大型ストロボもありますので、事前にテスト撮影することをおすすめします。
- セットしたシャッタースピードがファインダー内に点灯表示されます。
- "X" のときはシャッタースピードが1/90秒にセットされ、ファインダー内に "90" が点灯表示されます。
- "B" のときは "バルブ撮影" になり、ファインダー内に "buLb" が表示されます。

3 次の表に従って、絞りまたはシャッタースピードをセットして撮影します。

露出モード	絞りまたはシャッタースピード
Av、M、X、B	絞りをセットしてください。セットした絞りで撮影されます。
Tv	シャッタースピードを1/125秒以下にセットします。自然光に合わせた適正絞りに自動セットされます。明るいときは自動的に絞り込みます。

- 撮影後調光が行われたときはファインダー内 "⚡" マークが2秒間点滅します。
- 撮影後 "⚡" マークが点滅しないときは露出アンダーになりますので、絞りや撮影距離を変えて撮影し直してください。
- 近接撮影時、"⚡" が撮影後点滅しても露出オーバーになることがあります。ストロボの取扱説明書記載の撮影範囲で撮影してください。
- A・B・Cレバーは必ず "0" にしてください。
- ドライブモードが "C"（連続撮影モード）の場合は、ストロボの性能をご確認ください。
- フィルム感度はISO25～800に連動します。（露出補正は含みません。）
- シャッタースピードが遅くなるときは、カメラぶれ防止のため、三脚をご使用ください。



〈スローシンクロ撮影〉

ストロボ撮影で夕景や夜景などの情景を生かした撮影を行うには1/30秒以下のスローシンクロ撮影が有効です。TLAストロボのTTLオートモードを利用すると簡単な操作でスローシンクロ撮影が行えます。

■ 露出モードが“Av”のとき

構図を決め、メインスイッチを“AEL”にセットします。シャッタースピードが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。



通常のストロボ撮影

■ 露出モードが“Tv”のとき

構図を決め、メインスイッチを“AEL”にセットします。絞りが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

- シャッタースピードは1/30秒以下にセットしてください。

■ 露出モードが“M”のとき

シャッタースピードを1/30秒以下にセットします。絞りを動かして自然光の測光値に露出を合わせ露出メーターが“適正”になるようにし、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。

- スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。





ストロボを使用しない場合

〈デイライトシンクロ撮影〉

屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、TLAストロボを使ってTTLオートモードで撮影すると人物も背景もきれいに描写することができます。

■ 露出モードが“Av”、のとき

ストロボ充電完了後、シャッタースピード表示の“125”が点滅した場合は、絞りを絞り込んで“125”を点灯にして撮影してください。

■ 露出モードが“Tv”のとき

明るいところでは、自動的に絞りが調整されてデイライトシンクロ撮影になります。

■ 露出モードが“M”、“X”のとき

“M”のときは、シャッターダイヤルを“125”以下にセットしてください。
絞りを調整し、ファインダー内露出メーターが“適正”になるようにして撮影します。

【露出補正ダイヤルの利用】

TTLオート撮影では、ストロボの発光量はカメラの露出補正ダイヤルに連動します。ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、露出補正ダイヤルを利用してください。



後幕シンクロ撮影



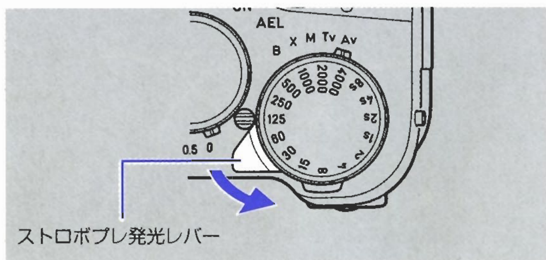
先幕シンクロ撮影

〈後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。
通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光（先幕シンクロ）させて撮影します。このカメラと、後幕シンクロ機能のある当社ストロボとを組み合わせると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光（後幕シンクロ）させることができます。

ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。

- 露出制御は、通常のストロボ撮影（先幕シンクロ）と同様です。



〈プレ発光TTLオートストロボ撮影〉

TLAストロボを使ってプレ発光を行うと、ストロボの発光量（調光時間）を記憶することができます。

1 カメラにTLAストロボをセットします。

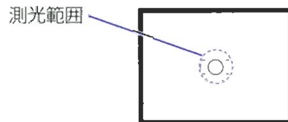
- 撮影モードとシャッタースピードおよび表示については“TTLダイレクト測光による撮影”の項をご覧ください。

2 ストロボの電源を“ON”にして充電完了を確認します。

- TLA増灯システムでストロボを増灯したときは、すべてのストロボの充電完了を確認してください。

3 絞りをセットし、測光したい被写体にカメラを向けて、ストロボプレ発光レバーを矢印方向に回します。

カメラが自動的に絞り込みおよびミラーアップを行いストロボが発光します。（このとき撮影は行われません。）
ファインダー内のストロボメーターに適正値からの誤差量が±2EVの範囲で表示され、同時に発光量（調光時間）を記憶します。



4 ストロボメーターが適正値を示した場合は、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。

ストロボメーターが適正値以外を示した場合は、絞りを調整して適正表示にし撮影してください。絞りで調整しきれない場合や、測定値が±2EVを超えて点滅表示した場合は、絞りを設定し直して再度プレ発光させてください。

- プレ発光レバーを戻さない限り、調光時間（発光量）は記憶され続けますので同じ調光時間（発光量）で何度も撮影できます。
- プレ発光前に露出補正がされているときは、補正を加えた値を中心に±2EVの範囲で表示されます。

〈プレ発光TTLマニュアルストロボ撮影〉

TLAストロボをマニュアルで使用するときや、汎用ストロボを使用するときもプレ発光によるTTL測光が可能です。

1 **カメラのアクセサリーシューまたはシンクロターミナルにストロボを取り付けます。**

2 **カメラの露出モードを“X”または“M”（シャッタースピードは1/125秒以下）にし、絞りをセットします。**

3 **接続した全てのストロボの充電完了を確認してください。測光したい被写体にカメラを向けて、ストロボプレ発光レバーを回します。**

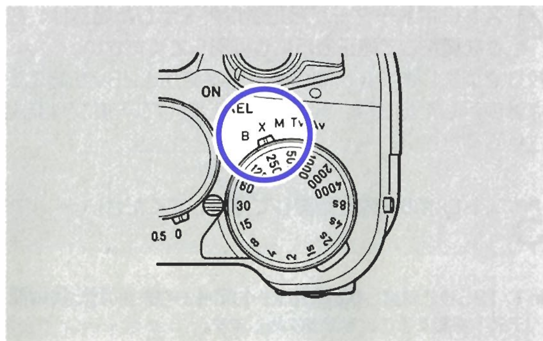
カメラが自動的に絞り込みおよびミラーアップを行いストロボが発光します。（このとき撮影は行われません。）
ファインダー内のストロボメーターに適正値からの誤差量が±2EVの範囲で表示されます。

4 **ストロボメーターが適正値以外を示した場合は、絞りを調整して適正表示にし撮影してください。**

絞りで調整しきれない場合や、測定値が±2EVを超えて点滅表示した場合は、絞りを設定し直して再度プリ発光させてください。

5 **ストロボの充電を確認して撮影してください。**

- 1/125秒で同調しない大型ストロボもありますので、事前にテスト撮影することをおすすめします。
- プレ発光は電子スイッチを用いてストロボ発光する機構になっています。このため一部のストロボではプレ発光によるストロボメーター測光ができない場合があります。



〈TLAストロボ以外のX接点を利用した他のストロボによる撮影〉

1 カメラにストロボを取り付け、露出モードレバーを"X"にセットします。

シャッタースピードは、1/90秒になります。

● シャッタースピードはシャッターダイヤルがどの位置にあっても変わりません。

2 絞りをセットして撮影します。

絞りは使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

● ダイレクト接点ではない、コードを必要とするストロボは、カメラ側面のシンクロターミナルに接続してください。

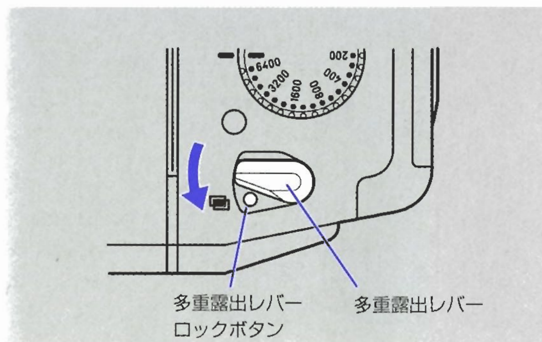
〈ウエストレベルファインダー使用時のストロボ撮影〉

別売のフラッシュブラケットMSB-1をご利用ください。コンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせてP59~P66のストロボ撮影ができます。

フラッシュブラケットの詳細はP94をご覧ください。

● 『ストロボオートセット機能』は使用できません。

多重露出撮影



同じ画面に、違う種類の被写体、あるいは同じ被写体を重ねて写し込むことにより、独特の写真表現ができます。

1 **多重露出レバーロックボタンを押しながら、多重露出レバーを回して"▣"にセットします。**

● 多重露出をセット後に解除したいときは、1回目のシャッターボタンを押す前に多重露出レバーを元に戻してください。

2 **シャッターボタンを押します。**

1回目の露光を行い、次の露光のためシャッターだけがセットされます。(多重露出レバーを元に戻すまで、シャッターだけがセットされフィルム巻き上げは行われません。)
引き続き希望する多重露出撮影回数の1回前まで撮影を行います。

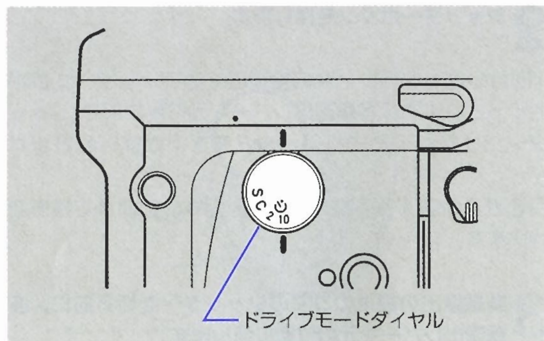
3 **多重露出の最後のコマのシャッターを切る前に、多重露出レバーを元の位置に戻します。**

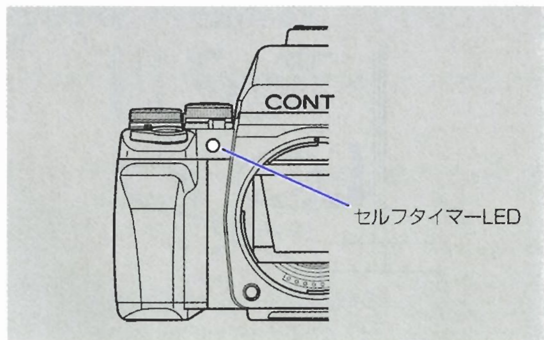
例えば3回の多重露出撮影の場合、2回目の撮影後多重露出レバーを元の位置に戻してから、3回目のシャッターを切ります。

● 多重露出レバーを必ず元に戻してください。戻し忘れると、多重露出撮影が継続されます。

4 **シャッターボタンを押して撮影を行うとフィルムは次のコマまで巻き上げられ、通常の撮影に戻ります。**

セルフタイマー撮影





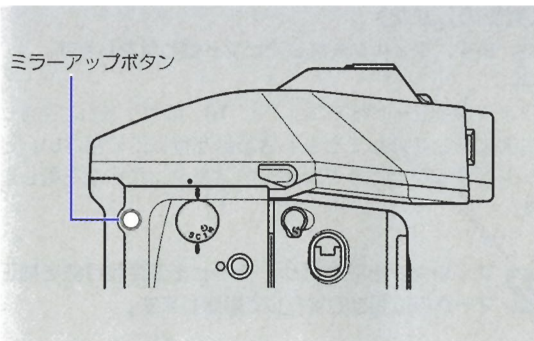
1 **ドライブモードダイヤルを回して、セルフタイマー撮影"⏲2、または⏲10"にセットします。**

2 **ピントを合わせ、シャッターボタンを押してください。**

セルフタイマーが作動し、2または10秒後にシャッターが切れます。セルフタイマー作動中、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅します。

- セルフタイマー撮影でファインダーから目を離すオート撮影では接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、アイピースシャッターを閉じて撮影してください。(P75)
- "⏲2"のときは、ミラーアップしてからセルフタイマーが作動します。
- セルフタイマー撮影時は三脚をご使用ください。
- バルブ設定時はセルフタイマーは使用できません。
- セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマー作動が最初に戻り、再スタートします。
- セルフタイマー作動を途中で中止するときは、メインスイッチをOFFにするか、ドライブモードを切り替えてください。

ミラーアップ撮影



この撮影は、あらかじめミラーを上げておき、撮影の瞬間にシャッターだけを作動させます。例えば三脚を使ってのスローシャッター、望遠レンズでの撮影あるいは接写や複写など極めてわずかなショックでも避けたいときの撮影に使います。ケーブルスイッチLAタイプとの併用が有効です。

1 あらかじめ撮影したい被写体にピントを合わせ、構図を決めます。

2 ミラーアップボタンを押します。

ミラーが上がったままになり、ファインダースクリーンは像が写らず、真っ暗になります。

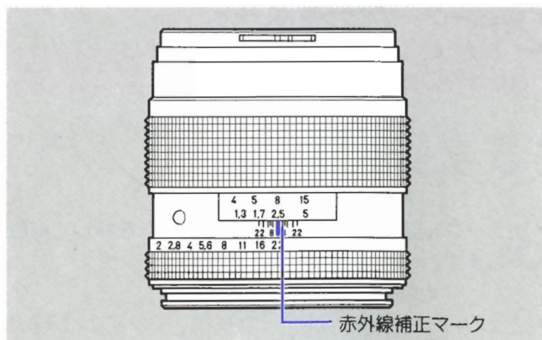
- ミラーアップボタンを押した時点でオートフォーカスと露出が固定されます。

3 ケーブルスイッチのシャッターボタンを押して撮影します。

- ケーブルスイッチは、コンタックス　ケーブルスイッチLAタイプをご使用ください。ケーブルスイッチLタイプは使用できません。

4 撮影が終了すると、ミラーが下がりミラーアップ撮影が解除されます。

- ミラーアップ中にメインスイッチを“OFF”にするか、またはカメラを操作せずに16秒経過すると、ミラーが下がりミラーアップ撮影が解除されます。
- レンズを装着していない状態では、ミラーアップできません。
- ミラーアップ撮影ではレンズを太陽に向けないでください。シャッター幕が焼け、損傷する恐れがあります。



1. 露出について

このカメラの露出計は、赤外線フィルムについては測定できません。フィルムの説明書に従って露出値を決定してください。

2. 赤外線補正マーク

赤外線フィルム（赤外線撮影用フィルター使用）を使用して赤外線撮影する場合は、一般撮影のときとピントが少しずれますので、そのずれ量だけ補正が必要になります。レンズにはそのための赤外線補正マークが表示されています。

〈撮影のしかた〉

1 まず、フィルターなしでピント合わせをします。

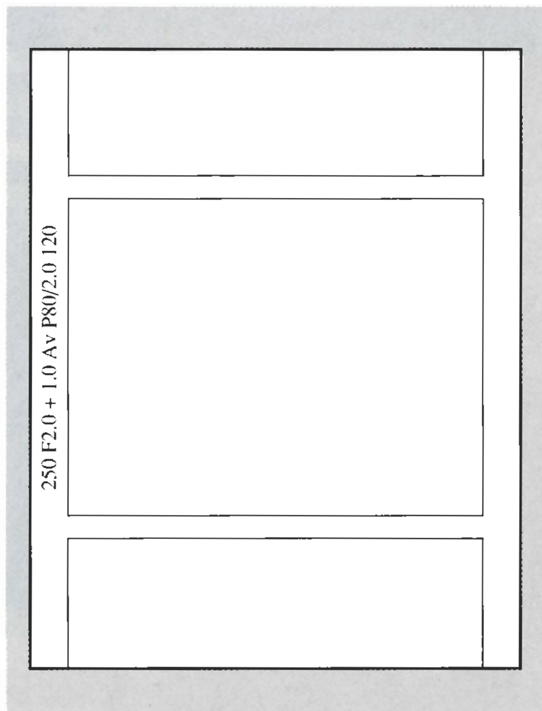
フォーカスモードをマニュアル“M”にセットし、フォーカスボタンを押してピント合わせを行ってください。ピントが合ったところでフォーカスボタンから指を離します。

2 フィルターを取り付け、そのときの距離目盛を補正マークの位置までずらして撮影します。

- フィルムの説明書も併せてお読みください。

その他

撮影データの写し込み

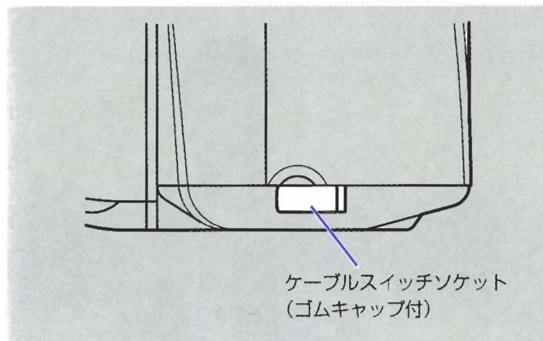


フィルムバック使用時には、次の撮影データを自動的に写し込みます。撮影の記録、整理などにご活用ください。

1. シャッタースピード
2. 絞り値
3. 露出補正値
4. 露出モード
5. レンズの種類
6. フィルムタイプ：120または220

- バルブ撮影のときはシャッタースピード表示のところに"buLb"と表示されます。
- 写し込み位置は、図のように画面外になりますので写真には写りません。
- 撮影データはフィルム上にある他の文字と重なることがあります。
- 多重露出撮影時、写し込みされる露出データは、最後に露光されたデータになります。
- バルブ専用ケーブルレリーズソケットを使用しての撮影では、データの写し込みは行いません。

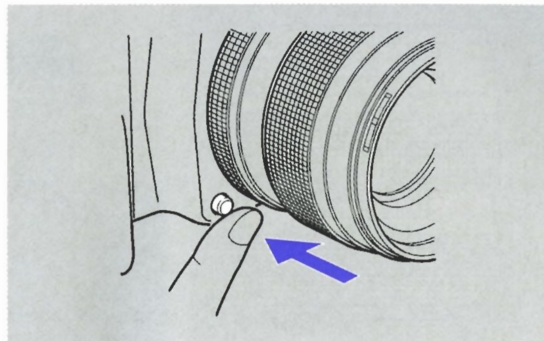
ケーブルスイッチソケット



ケーブルスイッチ（電気式）LAタイプを接続する接点で、電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

- ケーブルスイッチ（電気式）を使う撮影で、ファインダーから目を離すオート撮影では接眼部から入る光が測光に影響しないように、アイピースシャッターを閉じるかAEロックをご使用ください。
- コンタックス ケーブルスイッチＬタイプは使用できません。

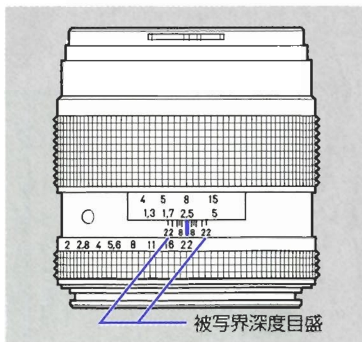
絞り込みボタン



ファインダーは常に絞り開放の状態になっていますが、このボタンを押すと押している間セットした絞り値まで絞り込まれ（ファインダー内は絞り値に応じて暗くなります。）、その状態で被写界深度や背景のぼけ具合を見ることができます。

- ボタンを離すと絞り開放状態に戻ります。
- 絞り込みボタンを押している間、露出は固定（AEロック）されます。
- 露出モードが“Tv”のとき、絞り込み作動はできません。

被写界深度について







レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

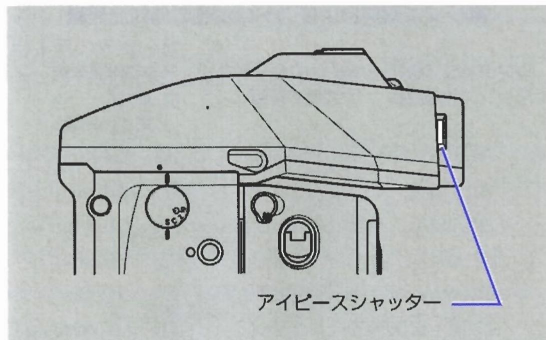
①絞りを絞り込むほど被写界深度が深く（前後に広く）、開放にするほど浅く（前後に狭く）なります。

②被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。

③ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。また異なるレンズでは、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

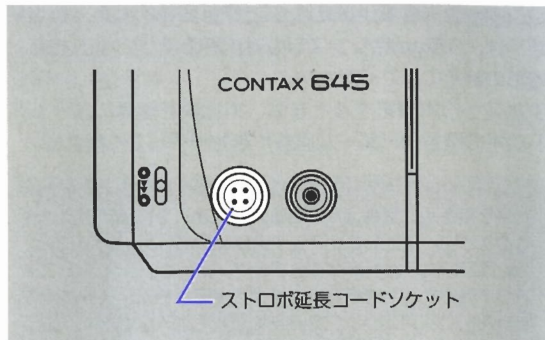
被写界深度の具体的な範囲は、個々のレンズの被写界深度目盛で確認することができます。例えば80mm F2.0標準レンズで2.5mの距離にピントを合わせ、絞りをF22 にセットした場合は、被写界深度目盛22に対応する距離、すなわち約1.7mから約4.1mまでピントが合うことになります。

アイピースシャッター



セルフタイマーやケーブルレリーズを利用してのオート撮影（Av、Tvの各モード）では、ファインダー接眼部から目を離しますので、接眼部から入る光が測光に影響をおよぼすことがあります。このような撮影では、アイピースシャッターを利用して接眼部をしゃ閉してください。アイピースシャッターを上にするとしゃ閉されます。

ストロボ延長コードソケット



ウエストレベルファインダー使用時のストロボ撮影には別売アクセサリーのフラッシュブラケットを使用します。そのフラッシュブラケットのストロボ接続コネクターを接続するソケットです。（P94）
また、AEプリズムファインダー使用時には、増灯ストロボ用延長コードソケットとしてご利用いただけます。

レンズ画角の比較とストロボ照射角について

コンタックス645用のレンズとほぼ同等の画角（焦点距離）は、35mm用レンズでは対比表のようになります。撮影の参考にしてください。
またストロボ撮影するときは、対比表を参考にズームストロボの照射角（ズーム目盛）をセットしてください。

コンタックスTLAストロボの照射角（ズーム目盛）は35mmカメラ用として画角（焦点距離）表示されていますのでご注意ください。また、コンタックス645と35mmカメラでは、撮影画面の縦横比が異なりますので、コンタックス645でストロボ撮影するときは充分な配光を得るために、ストロボの照射角をご使用のレンズ焦点距離に対して1段広角（1段短い焦点距離）にセットしてください。（対比表は1段広角になっています。）

- ストロボの照射角固定タイプの場合は、対比表の照射角セット値またはその値より広角（短い焦点距離）のものをご使用ください。狭角のものを使用すると画面周辺光量が落ちます。

■レンズ画角およびストロボ照射角対比表■

コンタックス645用レンズ焦点距離	35mmカメラ用レンズ焦点距離	ストロボ照射角セット値（35mm換算）
35mm	21mm	——
45mm	28mm	24mm
80mm	50mm	35mm
120mm	75mm	50mm
140mm	85mm	70mm
210mm	135mm	100mm

カスタム機能

このカメラには、次の表のように、3項目の“カスタム機能”を搭載しています。お買い上げ時は、標準的な機能（内容番号の標準設定“00”）にセットしてあります。（この取扱説明書では“00”の状態を説明しています。）
カスタム機能を変更したい場合は当社サービスステーションにお持ちください。。

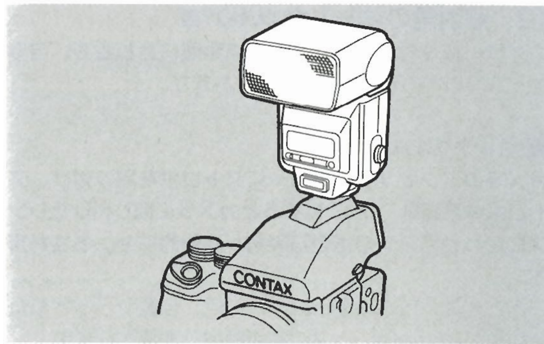
● カスタム機能をセットするとカメラの機能や操作手順が変わります。下記の表をよくお読みいただき、正しくご使用ください。

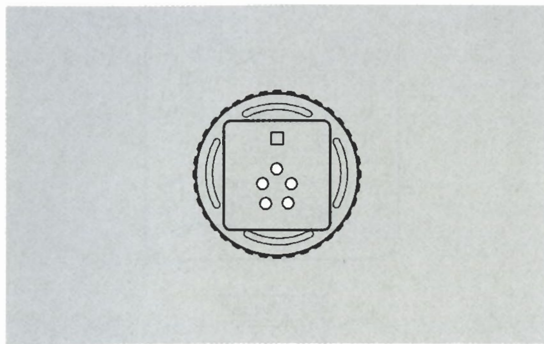
〈カスタム機能一覧表〉

機能番号　内容番号	標準設定（00）	変更設定（01）
1：A・B・C撮影順序の切り替え	撮影順序が、スタンダード→オーバー→アンダー。	撮影順序が、オーバー→スタンダード→アンダー。
2：AEロックの方法	メインスイッチを動かして“AEL”にセットする。（連続AEロック）	シャッターボタンを半押ししている間、AEロックする。（ストロボ充電完了時を除く） ● メインスイッチによる連続AEロック時は連続AEロックが優先します。
3：測距範囲の切り替え	【】の範囲でオートフォーカスを行う。	“○”の範囲でオートフォーカスを行う。

別売アクセサリー

CONTAX TLA360 ストロボ



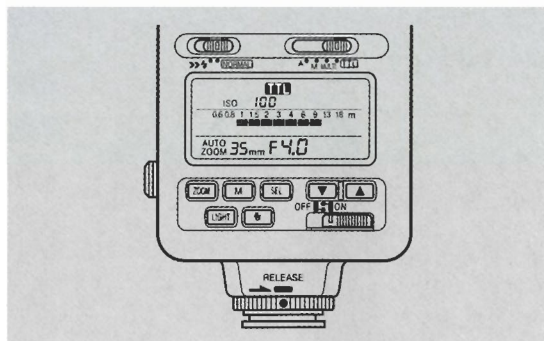


ガイドナンバー36（35mmカメラ用ISO100・35mmレンズ画角カバー時）の、クリップオンタイプのTTL自動調光方式パワーズームオートストロボです。ストロボオートセットの機能を備えていますので、コンタックス645と組み合わせると、従来のTTLオートストロボの機能に加えて次の六つの機能をもった使いやすいストロボです。

● TLA360取扱説明書の説明は、35mmカメラ（35mmフィルムサイズ、撮影画面サイズ：24×36mm）用のレンズ焦点距離で説明してありますのでご注意ください。

● これらの機能は、AEプリズムファインダー上部のアクセサリーシューに直接ストロボを取り付けた場合にお使いいただけます。
TLA延長コードやTTL増灯システムを利用して、カメラのアクセサリーシューから離して使用するときは、ストロボオートセット機能は働きません。

● ストロボオートセット機能を備えた当社TLAストロボはストロボ取り付け脚の接点が5箇所になっています。



〈1．オートセット機能〉

機能 ストロボ撮影モード	フィルム感度の 自動セット	絞り値の 自動セット
TTLオート	○	○
外部測光オート	○	×
マニュアル	○	○
マルチ発光	○	○

○：カメラ側のセットによりストロボにも自動セットします。
×：ストロボには自動セットされません。

〈2．照射角のオートセット〉

カメラに取り付けたレンズの焦点距離に合わせて、自動的にストロボの照射角がセットされます。

■セットのしかた

カメラのアクセサリーシューにストロボを取り付け、ストロボの電源を"ON"にするとカメラに取り付けたレンズに合わせてストロボの照射角が自動的にセットされます。

このときストロボの表示パネルには、自動セットされた照射角が35mm用レンズの焦点距離で表示されます。

■TLA360の表示■

取付レンズ	TLA360の表示
ディスタゴンT*35mm/F3.5	AUTO ZOOM 24mm （但し周辺は光量ダウンします。）
ディスタゴンT*45mm/F2.8	AUTO ZOOM 24mm
プラナーT*80mm/F2	AUTO ZOOM 35mm
アポマクロプラナーT*120mm/F4	AUTO ZOOM 50mm
ゾナーT*140mm/F2.8	AUTO ZOOM 70mm
ゾナーT*210mm/F4	AUTO ZOOM 85mm

また、ストロボの表示が"AUTO ZOOM"のときレンズを交換すると、交換したレンズに合わせて照射角が再セットされます。

〈3. 照射角の手動セット〉

ストロボのズームボタンを押すと、手動セットになります。ズームボタンを押すごとにZOOM焦点距離が切り替わりますので、希望の焦点距離を表示パネルに表示します。

● 表示パネルに表示されるレンズの焦点距離は、35mm対応値になりますのでご注意ください。P76の対比表を目安にしてセットしてください。

TLAストロボ照射角セット時のご注意

TLAストロボの照射角（ズーム目盛）は､35mmカメラ用として画角（焦点距離）表示されます。またコンタックス645と35mmカメラとはレンズの画角や撮影画面の縦横比が異なります。**ストロボ撮影するときは必ずP76の対比表に従って、ストロボの照射角をセットしてください。**

〈4. ストロボ光量の補正〉

"TTLオートストロボ撮影" モードで行います。他のモードでは、補正することができません。

- 補正は－3EV～＋1EVの範囲で1/3ステップごとに行えます。
- ストロボの補正は、カメラの露出補正の値を基準にして発光量を補正します。たとえば、カメラの露出補正を "＋1"、ストロボ側の補正を "＋1" とすると、ストロボの発光量は＋2EVになります。

1 **ストロボの "SEL" ボタンを押します。**

- ストロボの表示パネルに補正目盛が表示され、"+/－" マークが点滅します。

2 **ストロボの "▲" "▼" アップ／ダウンボタンを押して補正目盛を希望する値にします。**

3 **再度 "SEL" ボタンを押します。**

"+/－" マークが点灯表示になり、補正のセットが完了です。

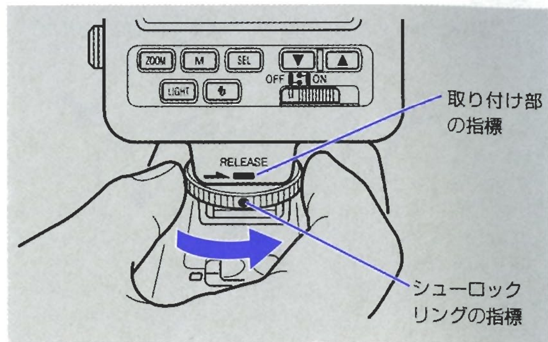
- ストロボ表示パネルの補正目盛は、ストロボ側の補正量を表示します。
- ストロボ側の補正量が "0"（補正しない）ときは、8秒後に補正目盛は消灯します。

〈5. "オートOFF"、"オートON" 機能〉

ストロボの電源スイッチを "オートOFF" にセットしたとき、ストロボの電源がカメラの電源 "OFF" から約80秒で自動的にOFFになります。またカメラの電源を "ON" させることで "オートON" になり、ストロボの充電が開始されます。

長時間のストロボ撮影時、省電効果があります。

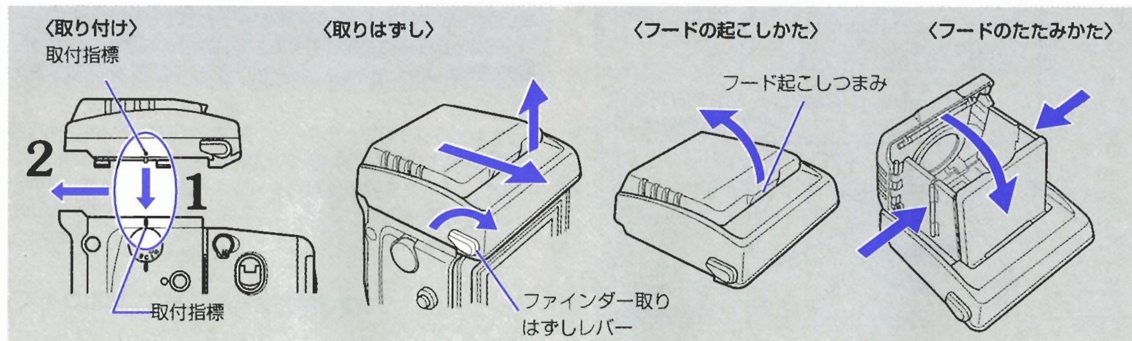
※上記のほかにも多くの特徴を持ったストロボですので、TLA360の取扱説明書を併せてご覧になり、多彩なストロボ撮影をお楽しみください。



〈6．シューストッパー〉

TLA360の“取り付け脚”には、ストロボが不用意にカメラからはずれないようにシューストッパー（抜け防止機構）がついています。
カメラの取り付け、取りはずしの際は必ず“取り付け脚”の指標にシューロックリングの指標を合わせてから行ってください。

ウエストレベルファインダー



〈取り付け〉

1 ファインダー取付指標をカメラボディの取付指標に合わせて、はめ込みます。

2 ファインダーを前方へ“カチッ”と音がしてロックするまでスライドします。

- ウエストレベルファインダーの画像は実際の被写体に対して左右逆になります。フレーミングの際ご注意ください。
- ウエストレベルファインダーを装着すると測光方式はスポット測光になります。
- 周囲の強い光がウエストレベルファインダー内に入ると、正しい露出が得られない場合があります。
- ストロボ撮影には別売のフラッシュブラケット（P94）をご利用ください。

〈取りはずし〉

ファインダー取りはずしレバーを矢印方向に回し、ファインダーを後方にスライドさせて取りはずします。

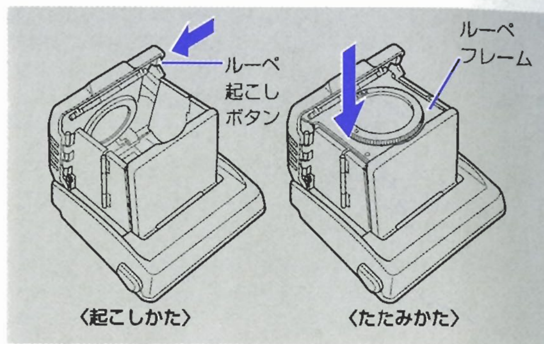
- ファインダー取りはずしレバーは自動的に元の位置に戻ります。

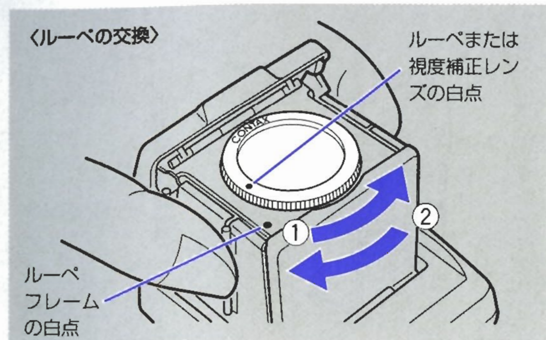
〈フードの起こしかた／たたみかた〉

①フード起こしつまみを矢印方向に起こすと開きます。

②フードの両側面板を内側へ押し込み、フード起こしつまみを矢印方向に倒してしてたたみます。

- ルーペが起きた状態ではたためません。





〈ルーペの起こしかた、たたみかた〉

ルーペ起こしボタンを内側へ押すとルーペが起きあがります。

ルーペをたたむときは、ルーペフレームを指で矢印方向にカチッとロックされるまで押し下げます。

〈視度調整〉

視度調整は、別売のルーペ用視度補正レンズとルーペを交換して行います。

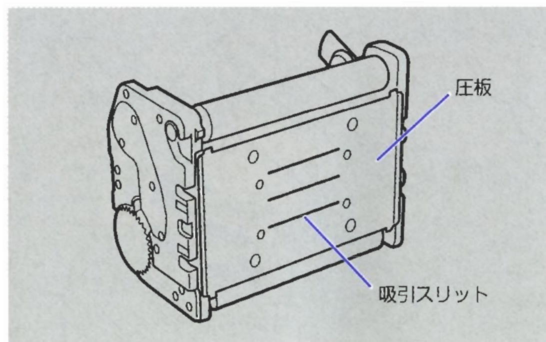
- 視度補正レンズはディオプターレンズMFWタイプ［−3D（ディオプター）、−2D、−1.5D、0D、+1D、+2Dの6種類］をご使用ください。（標準装備ルーペは−1.5D）

〈ルーペの交換〉

①フードの両側面を押さえてルーペフレームが下がらないようにして、ルーペの白点を矢印方向へ回して、ルーペフレームの白点に合わせて取りはずします。

②ルーペ用視度補正レンズの白点をルーペフレームの白点に合わせてはめ込み、矢印方向に止まるところまで回して固定します。

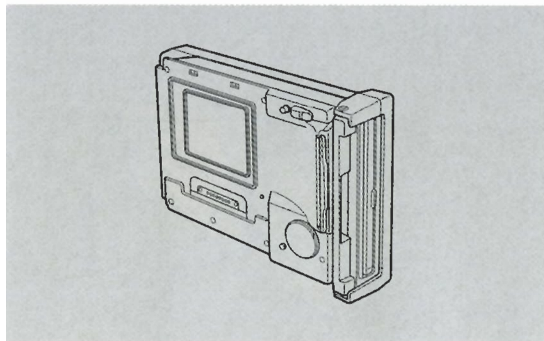
220バキュームフィルムインサート　MFB-1B



フィルムの平面性は面積が大きくなるほど維持することが難しくなります。特に、明るいレンズでの開放絞りでは焦点深度が極端に浅くなり、その際にフィルムのわずかな凹凸がピントに悪影響を与えます。フィルム装填するバキュームフィルムインサートにリアルタイムバキューム機構を採用することにより常に安定したフィルムコンディションが得られ、安心して撮影することができます。リアルタイムバキューム機構は、シャッターの先幕走行直前にフィルムを圧板に吸引し、後幕走行後に吸引状態を解除する機構で“Av、Tv、M、X”の各モードで作動します。

- 220タイプフィルム専用です。120タイプのフィルムは、遮光紙がフィルム背面にあるので、フィルムを吸引することはできません。
- 露出モード“B”（バルブ）では吸引しません。
- フィルム装填方法は120/220フィルムインサートと同じです。（P27参照）

ポラロイドバック　MFB-2



ポラロイドフィルム用のバックです。ポラロイドフィルムは、カラーまたは白黒写真が短時間で仕上がりますので、ライティングや構図およびピント等を前もってポラロイド写真で確認後、正式の撮影を行うことができます。また、急を要する写真にもご活用ください。
取り扱いはポラロイドバックに同梱の取扱説明書をご覧ください。

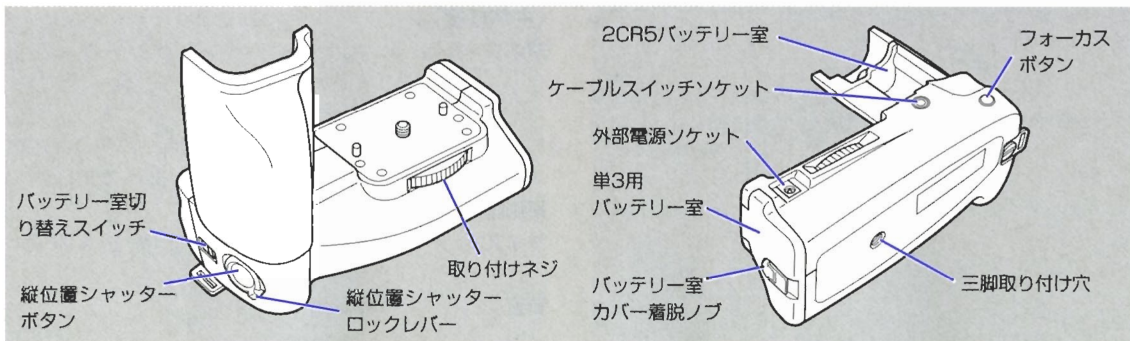
- ポラロイドフィルムバック付カメラを三脚に正しく取り付けられないときは、P94のクイックシューアダプターを併用してください。

〈主な仕様〉

対応フィルム	：ポラロイドインスタントフィルム 8.5×10.8cm（スタンダードシリーズ） ポラカラープロ100、ポラパンプロ100、タイプ667、タイプ669他
撮影画面サイズ	：41.5×56mm
サイズ	：172.5（幅）×118.5（高さ）×36.5（奥行き）mm
質量	：400g

＊仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

CONTAXバッテリーホルダー　MP-1（グリップベルト付）



バッテリーホルダーMP－1はCONTAX 645のグリップと交換して取り付け、単3形アルカリ乾電池または2CR5（6Vリチウム電池）でカメラを作動させるための専用アクセサリーです。フィルム撮影本数が増えさらに次のような特長もありますので、ご活用ください。

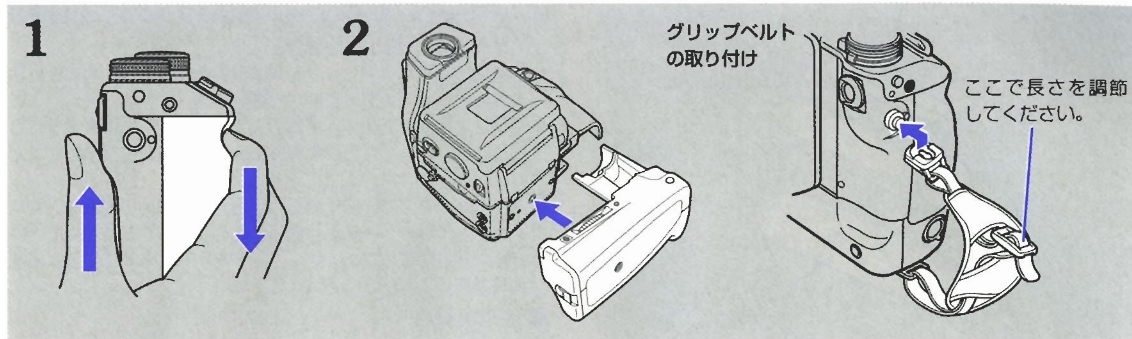
〈特長〉

①グリップ性を重視したバッテリーホルダーで、縦位置でもしっかりグリップできます。

②縦位置撮影のためのシャッターボタンとフォーカスボタンを装備しています。また誤操作を防ぐためにロック機構が付いています。

③バッテリーは1.5V単3アルカリ乾電池4本と2CR5（6Vリチウム電池）を装填でき、使用バッテリーを切り替えスイッチで選びます。

- 片方の電池容量がなくなると、バッテリー警告マークが点滅します。そのときはもう一方の電池に切り替えると、そのまま撮影を継続できます。
- 単3形乾電池はバッテリーホルダーをカメラ本体に取り付けたまま、電池交換ができます。



〈取り付けかた〉

1 カメラのグリップ兼バッテリーホルダーを取りはずします。

2 グリップ部を差し込んで入れ、カメラボディの三脚取り付け穴に取り付けます。

■主な仕様

電源： 1.5V単3形アルカリ乾電池4本または2CR5（リチウム電池）1本／スイッチで切り替え、同時装着可能、グリップベルト付

寸法： 141（幅）×108（高さ）×59（奥行き）mm

質量： 330g（グリップベルト・電池別）

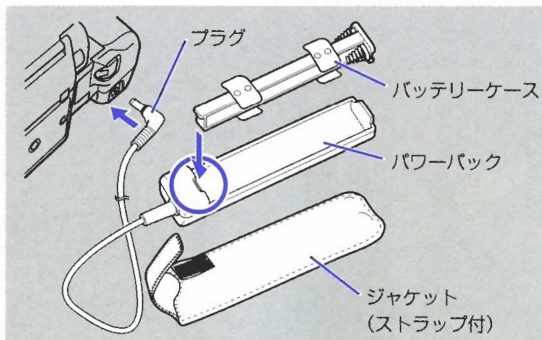
■使用電池と撮影本数

（120タイプ、常温、新品電池使用、当社撮影基準による。）

バッテリー種類	撮影本数
1.5V単3形アルカリ乾電池4本	約8本
1.2V単3形ニッカド電池4本	約12本
2CR5（6Vリチウム電池）1本	約30本

● ニッカド電池はフル充電して使用したとき。

※ 仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。



パワーパックP-8は、1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本を使用する外部電源です。寒冷地など、気温の低い場所で、寒さの影響による電池の低下を防ぐために、カメラの外部で電源を保温しながら撮影するために利用します。

〈取り付けかた〉

1．パワーパックP-8に電池を装填します。

①パワーパックP-8に付属しているバッテリーケースに、表示に従って単3形電池4本を入れP-8本体に取り付けます。

②P-8本体をジャケット（ケース）に入れます。

2．パワーパックP-8のコード先端のプラグを、外部電源ソケットに差し込みます。

- 撮影の際に、パワーパックを防寒具の内側などに入れると、より保温の効果を高めることができます。
- 電池を交換するときは、種類の違うものや古いものを混ぜたりしないで、4本とも同じ種類の新品電池を同時に交換してください。
- パワーパックを長時間使用しないときは、電池の漏液を防ぐため、バッテリーケースから電池を取りはずしておいてください。
- 接続コードの取りはずしは、コードを引っぱらずにプラグ部を持って行ってください。

■ P-8の仕様

構成：パワーパック本体、バッテリーケース、ジャケット（ストラップ付き）、コードの長さ：1.5m

電源：1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本（単3形マンガン乾電池は電池容量が少ないためご使用になれません。）

■ 使用電池と撮影本数

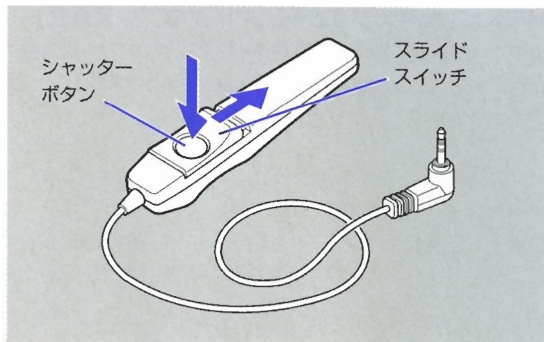
（120タイプ、常温、新品電池使用、当社撮影基準による）

バッテリー種類	撮影本数
1.5V単3形アルカリ乾電池4本	約8本
1.2V単3形ニッカド電池4本	約12本

- ニッカド電池はフル充電して使用したとき。

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

CONTAXケーブルスイッチ　LAタイプ



ケーブルスイッチLAタイプは、三脚などを利用しての接写や望遠撮影、あるいはカメラから離れてシャッターを切るときに使用します。特に接写や望遠撮影ではシャッター時のカメラぶれを防ぐことができます。
また長時間露光や連続撮影に便利なスライドスイッチを設けてあります。

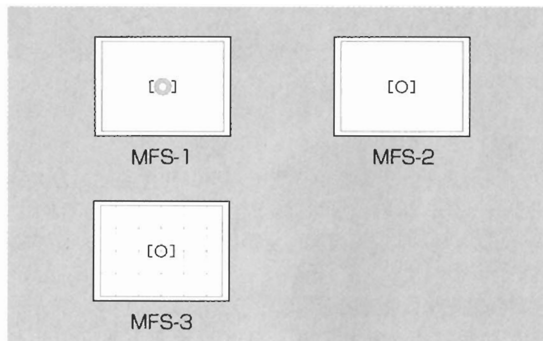
〈取り付け〉

ケーブルスイッチのプラグをカメラのケーブルスイッチソケットに差し込みます。

〈撮影〉

ケーブルスイッチのシャッターボタンを押すと、カメラのシャッターボタンと同じ働きをします。半押しで測距·測光·フォーカスロック等、全押しでシャッターが切れて撮影が行われます。
長時間露光または連続撮影を行うときは、スライドスイッチを利用すると便利です。スイッチを手前に引くと(赤い指標が見えます)、その間シャッターが作動を続け、元に戻すとシャッターが閉じて撮影が終わります。

フォーカシングスクリーン



CONTAX645用のフォーカシングスクリーンは、MFS-1、2、3の3種類が用意されており、撮影目的や用途に応じて交換することができます。
フォーカシングスクリーンにはオートフォーカス範囲、およびスポット測光範囲が表示されています（P20参照）。

MFS-1（水平スプリット／マイクロプリズム式）

中央のスプリット部、その外周のマイクロプリズム部、周辺のマット部の3つの部分でピントを合わせることができます。

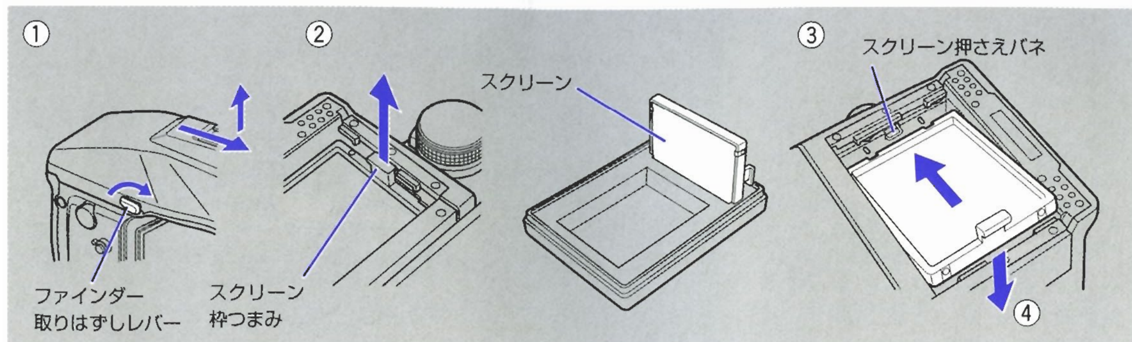
MFS-1の測距、測光範囲は次のようになります。
オートフォーカス範囲：【】の枠内
スポット測光範囲：　マイクロプリズム部外側の円と内側の円の中間（約ϕ5.5mm）の円内
＊表示はありません。

MFS-2（全面マット式）

標準装備品。全面をマット状にしたスクリーンで一般撮影に適しています。

MFS-3（方眼マット式）

全面マット式に10mm間隔の方眼を入れたスクリーンです。特にオートベローズを使用してのアオリ撮影、あるいは複写など厳密に構図を決定するときに適しています。



〈フォーカシングスクリーンの交換のしかた〉

1. フォーカシングスクリーンの取りはずし

①ファインダーを取りはずします。(P14参照)

②スクリーン枠つまみをつまんで静かに上へ引き上げフォーカシングスクリーンを取りはずします。

- 取りはずしたスクリーンは、ケース内の溝に立てておくと汚れや傷をつける心配がありません。

2. フォーカシングスクリーンの取り付け

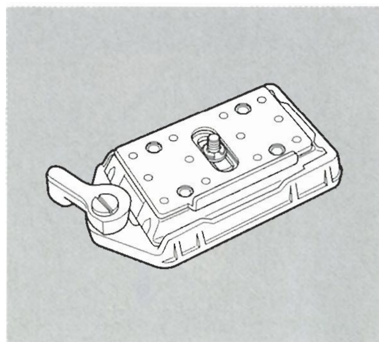
③フォーカシングスクリーンの端面を、スクリーン押さえバネの下へ差し込みます。

- スクリーン押さえバネを直接押したり曲げたりすると、カメラ破損の原因になります。

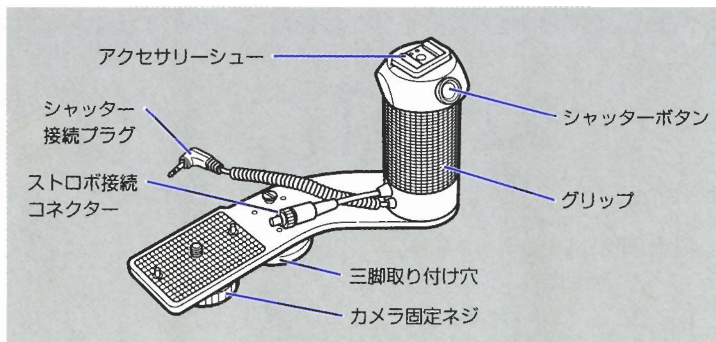
④そのまま静かに止まるところまで押し下げます。これで取り付けは完了です。

- フォーカシングスクリーンの交換は、ミラー面およびスクリーンに傷や指紋をつけないように注意してください。
- スクリーンにごみがついたときは、ブロワーで軽く吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払ってください。
- 使わないフォーカシングスクリーンは、スクリーンケース内に収納しておいてください。

クイックシューアダプター　フラッシュブラケット



カメラを三脚に素早く取り付け／取りはずしするためのアダプターです。
取り扱いはクイックシューアダプターに同梱の取扱説明書をご覧ください。



ウエストレベルファインダー使用時、コンタックスTLAフラッシュシステムと組み合わせると、TTLオートストロボ撮影ができます。また、左手用グリップとしてあるいは両手でしっかり構えてシャッターを切りたいときに使用します。

〈取り付けかた〉

①フラッシュブラケットのカメラ固定ネジをカメラの三脚取り付け穴にしっかりねじ込み固定します。

②ストロボ接続コネクターをカメラのストロボ延長コードソケットに、シャッター接続プラグをカメラのケーブルスイッチソケットに接続します。

③アクセサリーシューにTLAストロボを取り付けます。

● 三脚を使用するときは、三脚取り付け穴をご利用ください。

主な仕様

型式：6×4.5cm判フォーカルプレンシャッター式AF一眼レフカメラ
画面サイズ：56mm×41.5mm
レンズマウント：コンタックス645マウント
シャッター形式：縦走行フォーカルプレンシャッター
シャッタースピード：Av（オート）：32秒～1/4000秒
Tv（設定）：8秒～1/4000秒
マニュアル：B、X（1/90秒）、メカバルブ、8秒～1/4000秒
シンクロ接点：X接点（1/125秒以下で同調）ダイレクト接点、およびシンクロターミナル付き
セルフタイマー：電子式、作動時間2秒、10秒の2種
シャッターレリーズ：電子レリーズ方式、専用ケーブルレリーズソケット付、バルブ専用ケーブルレリーズソケット付
露出制御：①絞り優先オート　②シャッター優先オート　③マニュアル露出　④TTLオートストロボ　⑤プレ発光TTLオートストロボ　⑥プレ発光TTL測光マニュアルストロボ
測光方式：TTLスポット測光（標準装備）
中央重点平均測光（プリズムファインダー装着時）
プレフラッシュTTL測光
測光連動範囲（ISO100、F2）：スポット測光：EV3～18
中央重点平均測光：EV1～21

フィルム感度連動範囲
：バーコードによる自動設定時：ISO 25～5000
マニュアル設定時：ISO 6～6400
AEロック：像面光量記憶方式
露出補正：+2EV～−2EV（1/3ステップで設定可能）
A･B･C機構：A･B･Cレバーの設定による露出補正幅±0.5EV／±1 EV
ストロボ調光連動方式
：TTLダイレクト調光方式
ストロボ同調：専用ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切り替え
ストロボオートセット機能
：ストロボオートセット機能付き当社ストロボと組み合わせることにより可能
後幕シンクロ：後幕シンクロ機能のある当社ストロボと組み合わせることにより可能
ファインダー：交換式TTLファインダー（AEプリズムファインダー、ウエストレベルファインダー）
視野率········95%
AEプリズムファインダー装着時：
倍率··········0.8倍
（80mm標準レンズ無限遠、視度＝1Dのとき）
視度補正：AEプリズムファインダー装着時：
視度補正機構内蔵、補正範囲−2D～+1D

フォーカシングスクリーン
：全面マット式を標準装備
スクリーン交換可能

ファインダー内表示：バッテリー警告マーク、フィルムカウンター／セルフタイマー残り時間／A·B·C表示／フィルム終了表示、測光マーク、ストロボマーク、合焦マーク、絞り値、シャッタースピード、露出メーター

フィルム装填：スタート位置マーク合わせによるセミオートローディング、フィルムカウンター"01"までの空送り機構付き

フィルム巻き上げ：内蔵モーターによる自動巻き上げ

フィルム巻き取り：内蔵モーターによる自動巻き取り、途中巻き取り可能

ドライブモード：1コマ、連続、セルフタイマー（2秒、10秒）

多重露出：多重露出レバーによるセット

巻き上げ速度：連続撮影（"C"モード）最高1.6コマ/秒（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）

フィルムカウンター：自動復元順算式

アクセサリーシュー：ダイレクトX接点（TLAストロボ連動接点付）

データ記録機能：画面外に撮影データを記録する。
記録内容：絞り値、シャッタースピード、露出補正値、露出モード、レンズの種類、フィルムタイプ

電源：6Vリチウム電池（2CR5）1個使用

バッテリーチェック：自動チェック式、ファインダー内に表示

フィルム撮影本数：120タイプフィルム約30本
（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）

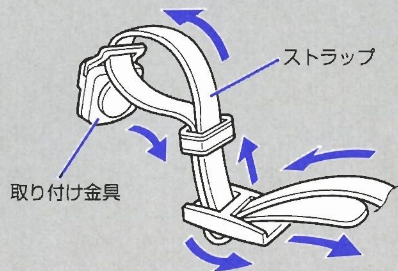
その他：絞り込みボタン付
：ミラーアップ機構付

寸法、質量：①カメラボディ
141（幅）×99（高さ）×73（奥行き）mm
645g（電池別）
：②AEプリズムファインダー、フィルムバックホルダー、120/220フィルムインサート装着時
141（幅）×138.5（高さ）×145.5（奥行き）mm
1,370g（電池別）

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、交換レンズ、およびアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。コンタックス用として市販されている他社商品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

ストラップの取り付けかた



①図のようにストラップを取り付け金具に通します。

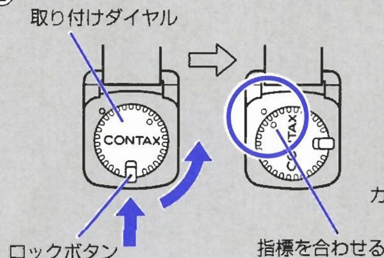
②取り付け金具のロックボタンを押しながら取り付けダイヤルを矢印方向に回し、指標を合わせます。

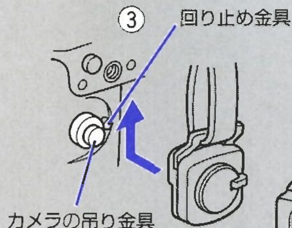
③取り付け金具の取り付け穴ををカメラの吊り金具にはめ込み矢印方向にスライドさせます。

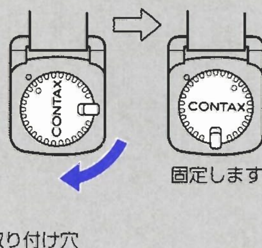
④取り付けダイヤルを矢印方向に戻して固定します。

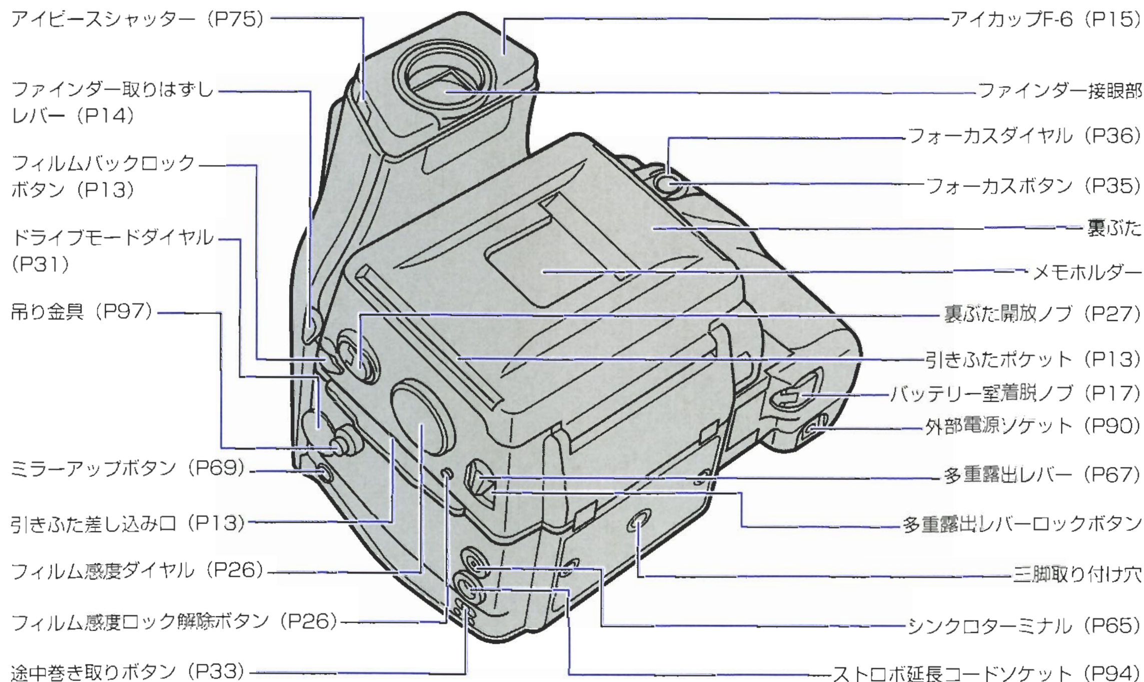
⑤取りはずしは②の操作を行い、③の逆の手順で抜き取ります。

- ストラップの長さは留め具で調節してください。
- ストラップ取り付け後ストラップを引っ張り、確実に固定されていることを確認してください。








アイピースシャッター（P75）
ファインダー取りはずし
レバー（P14）
フィルムバックロック
ボタン（P13）
ドライブモードダイヤル
（P31）
吊り金具（P97）
ミラーアップボタン（P69）
引きふた差し込み口（P13）
フィルム感度ダイヤル（P26）
フィルム感度ロック解除ボタン（P26）
途中巻き取りボタン（P33）
アイカップF-6（P15）
ファインダー接眼部
フォーカスダイヤル（P36）
フォーカスボタン（P35）
裏ぶた
メモホルダー
裏ぶた開放ノブ（P27）
引きふたポケット（P13）
バッテリー室着脱ノブ（P17）
外部電源ソケット（P90）
多重露出レバー（P67）
多重露出レバーロックボタン
三脚取り付け穴
シンクロターミナル（P65）
ストロボ延長コードソケット（P94）